

平成 30 年度版

第 1 層生活支援
コーディネーター
活動事例集

目次

はじめに	1
------	---

2 層域の取組支援

金沢区	：次世代の地域活動者を発掘!!	3
神奈川区	：区域からさまざまなカタチへ	5

1.5 層域の取組支援

磯子区	：空き家を活用した場づくり	7
緑区	：コーディネーター同士のつながりづくり	9
瀬谷区	：“お互いさま”で支えあおう！	11
泉区	：泉サポートプロジェクト始動！	13
西区	：地域貢献の想いを形に！	15

1 層域の取組支援

中区	：“ちょっとした困りごと”への対応	17
南区	：掃除の便利グッズと楽に掃除ができる知恵を集めて大公開！	19
旭区	：旭区食品スーパー・ドラッグストア配達サービス一覧の作成	21
戸塚区	：地域包括ケアシステムが団地を救う！	23
栄区	：ちょこボラと CM と私たち	25
港南区	：笑顔の輪を広げませんか？	27
鶴見区	：生活支援ボランティアグループのつながりづくり	29
保土ヶ谷区	：あきらめているニーズを実現！イキイキとした自分らしい暮らしへ	31
港北区	：今ある仕組みを活かして	33
青葉区	：重層的な支援の実現に向けて	35
都筑区	：移動支援のためのニーズ把握アンケート	37

0 層域の取組支援

横浜市	：横浜市域で取り組む生活支援体制整備事業	39
-----	----------------------	----

略字表記

※この冊子では、次の用語については()内の表示とします。

- | | |
|------------------|-------------------------------|
| ・市社会福祉協議会（市社協） | ・地域ケアプラザ（CP） |
| ・区社会福祉協議会（区社協） | ・地域包括支援センター（包括） |
| ・地区社会福祉協議会（地区社協） | ・特別養護老人ホーム併設型地域包括支援センター(特養包括) |
| ・民生委員・児童委員（民生委員） | ・地域活動交流コーディネーター（地域交流 Co） |
| ・地区連合町内会（地区連合） | ・生活支援コーディネーター（生活支援 Co） |
| ・自治会町内会（自治会） | ・第1層生活支援コーディネーター（1層 Co） |
| ・地域福祉保健計画（地福計画） | ・第2層生活支援コーディネーター（2層 Co） |
| ・ケアマネジャー（CM） | ・生活支援体制整備事業(体制整備事業) |

はじめに

1 事例集の作成にあたって

横浜市では、平成 28 年度から体制整備事業が始まり、今年度で 3 年が経過しようとしています。事業開始とともに誕生した 160 名近い生活支援 Co は、平均 2.5 万人を対象エリアとする CP（又は特養包括）に第 2 層、平均 20 万人を対象エリアとする区社協に第 1 層の生活支援 Co が配置されました。

1 層 Co は、区社協のネットワークや既存事業との連動、CP と連携した事業推進が期待されていますが、地域の状況や進め方は多種多様であり、1 層 Co の活動も多岐に渡ることから非常に整理しづらく、見えにくいことが課題でした。

そのため、平成 29 年度から体制整備事業のテーマの 1 つに活動の「見える化」を掲げ、事例集を作成しました。平成 30 年度も引き続き 18 名の 1 層 Co の取組に加え、より広域での課題解決を目指した市域の取組をまとめた事例集を作成しました。地域住民や関係機関に加え、民間企業など様々な方と模索しながら進めてきた取組について、多くの方にご覧いただければ幸いです。

2 掲載事例について

本事例集では、各区の様々な取組から特徴的な事例及び市域の取組を 1 つずつ取り上げ、その取組を「プロセス」と「階層」の 2 つの視点で整理しました。

本事例集では、「階層」の順で事例紹介を行います。掲載事例のプロセスがどの段階となるか各事例の表題に上記イメージ図を簡素化したアイコンで示しています。

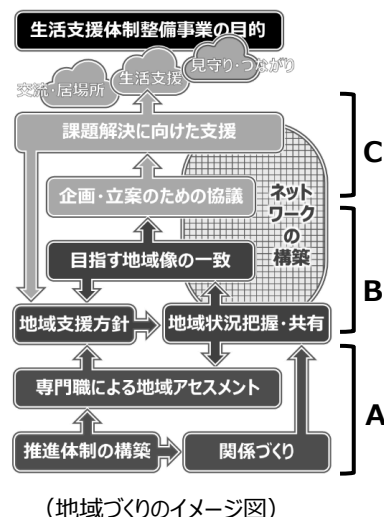
（1）プロセスで整理

横浜では、体制整備事業の目的を、課題解決に向けた「交流・居場所」「生活支援」「見守り・つながり」が充実することとしました。しかし、この事業は創出された活動の数だけでなく、それらが住民主体をベースとした「地域づくり」のプロセスを踏まえて行われたかが重要と考えました。そこで、1 層 Co の取組を右図の地域づくりのプロセス（A～C）に照らし合わせて整理しました。

例えば、「C 課題解決に向けた支援」で、これまでの地区社協や自治会などの協働に加え、課題に応じて社会福祉法人・施設や民間企業など多様な主体と連携した活動が展開されています。

また、「A 専門職による地域アセスメント」は、既存の活動をつないだり、活動を通して見えてきた課題を改めてアセスメントするなど事業開始当初と比べて内容も変化しています。

さらに、地域づくりのプロセスは一方向に進むだけでなく、常に循環していくことや活動の中には複数の要素を持つことが分かります。



(2) 階層で整理

当初、1 層 Co は活動エリアが広く、何から手をつけてよいのかという迷いも聞かれました。その中で、昨年度の 1 層 Co の取組は、新任 2 層 Co が多数であったことから、2 層 Co とともに地域に働きかける取組に比重が置かれていました。しかし、今年度は、2 層域の取組支援は継続しつつも、1 層 Co のエリアの広さを活かし、区内の生活支援ボランティア団体のネットワーク構築、社会福祉法人・施設や民間企業など多様な主体へのアプローチが中心となってきています。さらに、企業とは地域貢献としてだけでなく、企業本来の事業と地域づくりを結びつけていく新たな関係性に進みつつあります。

また、空き家の活用や移動販売のように、2 層域では狭く 1 層域では広すぎる課題については、隣接するいくつかの CP が協働し、1 層 Co が全体を調整するような 1.5 層域の取組も出てきています。

今後、これまで踏み込めなかった生活課題を解決していくためには、この 3 年間の取組から見えることを活かし、地域に応じて柔軟に対応する 2 層域から広域の仕組みづくりをする 1 層域までが、様々な方法で取り組み続けることが大切と考えています。

階層 による分類 プロセス による分類	2 層域の取組支援 2 層 Co とともに、地区社協や自治会に働きかけをし、地域づくりを支援。	1.5 層域の取組 複数の CP 圏域で共通する課題解決に向けて、2 層生活支援 Co とともに、働きかけや仕組みづくりを支援。	1 層域の取組 ① 区域で、担い手の発掘、課題解決に必要な情報発信、助成金制度の整備等による支援。 ② 広域に活動する団体（NPO、社会福祉法人、民間企業等）のネットワーク等による、2 層域では解決が難しい課題への取組。
C 課題解決に向けた支援 課題解決に向けて、情報発信や必要なネットワークの構築、具体的な取組を実施していく段階。	金沢 (P.3)	磯子 (P.7) 緑 (P.9) 瀬谷 (P.11)	中 (P.17) 南 (P.19) 旭 (P.21) 戸塚 (P.23) 栄 (P.25)
B 目指す地域像の一致 専門職間で共有された情報を基に支援方針を立てたり、地域だからこそ知っている情報を把握し、どのような地域を目指していくか地域住民や事業所等と共有していく段階。	神奈川 (P.5)	泉 (P.13)	港南 (P.27)
A 専門職による 地域アセスメント 区社協の機能を活かして地域情報や課題をアセスメントし、課題解決のための仮説を検討する段階。		西 (P.15)	鶴見 (P.29) 保土ヶ谷 (P.31) 港北 (P.33) 青葉 (P.35) 都筑 (P.37)

上記に加えて、横浜市域を範囲に取組んでいる「0 層域の取組」も掲載しています。

次世代の地域活動者を発掘!!

～「地域づくり塾かなざわ」のとりくみ～

「住民同士のささえあい」を進めるための人材不足は常に地域の大きな課題です。「地域づくり塾かなざわ」では区社協・区役所・CP が協働して人材の発掘や新たな地域資源の開発を「塾」を通じて応援しています。



金沢区社協
井上 聖貴

2 層域

交流・
居場所

生活支援

見守り・
つながり

C 課題解決に向けた支援

B 目指す地域像の一致

A 地域アセスメント

1

取組のきっかけ

平成 27 年度にモデル事業としてウイリング横浜で実施された「地域福祉つなぎ隊研修」に参加した地域の方から、とても有意義だったので金沢区にも広めたいとの声が上がりました。

一方、区社協などで実施していた地域活動者の養成講座では、受講後に活動の受け皿がなく、なかなか活動につながらないとの課題感を持っていました。

次世代の活動者の発掘や育成は地域の普遍的な課題であり、支援者側もなんとか地域の苦労を応援したいとの思いから、**平成 28 年度より金沢区役所との協働事業として「地域づくり塾かなざわ」**が始まりました。

実施にあたり、**参加者を連合町内会と地区社協からの推薦**とし、すでにある程度の活動の基盤がある方、次世代の地域活動のリーダーとして活躍いただける方に絞りました。

平成 28・29 年度は**カリキュラムを 6 日間**とし、①初めに座学で自分の地域の課題を考えて分析する②すでに区内で先進的に活動している団体の発表を聞く③フィールドワークで様々な地域活動取材する④これまでの学びを通じて地域に帰った際に自分が実施したい企画を考えて発表する。という流れになっており、とても盛りだくさんな構成になっていました。

特にフィールドワークを取り入れたことが金沢区の特徴となっています。



講座の様子

♡ 1 層 Co の思い

平成 29 年度に前任者より事業を引き継ぎました。次世代の地域活動者がいないという声は社協職員になってからずっと聞いてきた課題だったので、「地域づくり塾かなざわ」をきっかけに少しでも担い手の発掘・育成のお手伝いができればと考えていました。

また 1 層 Co としては、2 層 Co と地域の方をうまく結び付けて行きたいと強く思っていました。



金沢東部地区社協
大泊事務局長

「地域づくり塾かなざわ」に参加して、地域を全体として俯瞰的にみることができるようになりました。それまでは地域の子育て関連の事業に携わっていましたが、自信をもって地区社協事務局長に就任することができました。また、講座内で企画発表した「スペース谷津坂」という子どもの放課後の居場所事業も、1 年後に「地域づくり塾かなざわ」に参加した仲間も加わり軌道にのってきました。

2

取組の内容

♡ 1層 Co の思い

「地域づくり塾かなざわ」の講師及び全体のコーディネートは高崎健康福祉大学の金井 敏教授にお願いしています。

講座の特徴として、**参加者を CP のエリアごと(地区ごと)にグループ分けし、普段から関係の強い CP の生活支援 Co と一緒に地域の課題を分析し、身近なエリアの中で課題を解決するための社会資源の企画を考えてもらっています。**また、2層 Co が「地域づくり塾かなざわ」の企画段階から入り、毎回ファシリテーターとして参加することにより、**受講者の受講後の相談先が確保され、その後のフォローアップがしやすくなっています。**

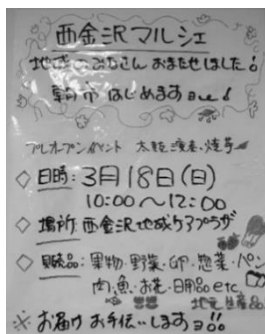


講師：金井先生

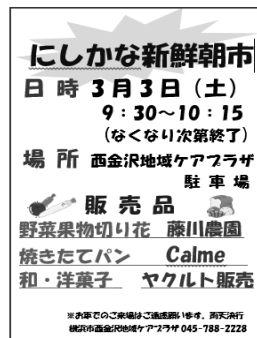
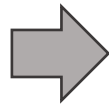
受講生はとても意欲の高い方が多く、グループワークも非常に積極的です。

金井先生が講義で使用する、地域の見守り活動を見える化して分析するツールに「見守りマトリクス」があります。「見守りマトリクス」は地域活動を客観的に捉えられ、地域の情報交換に大変有効なため、地域支援チーム向けの研修や地区推進連絡会にも取り入れられています。

過去2年間の修了者の中から地区社協の事務局長に就任された方や地域のコミュニティカフェの代表になられた方がいます。また、2層 Co がグループワークに参加して企画された取組が実現した例もあります。高齢化が進んでいる坂の上の住宅地で、スーパーが撤退したことにより買い物困難者が多くいる中で、CPを会場に朝市(マルシェ)を開催するという企画です。そのほかにも修了者の多くが地域で活躍しています。



講座内の企画



実現された企画

CP が中心となり、地域づくり塾修了者との企画が実現！
今後は町内会館での定例開催を目指して検討を進めています。

3

今後に向けて

実施3年目の今年度は講座の日程を6日程から3日程へ変更して受講しやすくしたり、テーマ型で活動している方と地縁型で活動している方の融合を目指して、CPや区民活動センターからの推薦枠を設けたりと、これまでの取組をよりブラッシュアップして実施しています。また、地域交流 Co にも参加の声かけをするなど、「地域づくり塾かなざわ」も講座の形をより良いものへと変化させています。地域の中にも取組が認知され、多くの受講者の推薦が得られるようになってきました。また、2年前の受講者が講座内で発表した企画を実現して、今年度の講座で発表を行うなど、好循環も生まれてきています。

今後も区役所や CP との連携を強め、「地域づくり塾かなざわ」での学びが地域活動の中で具体的に活かされていくように支援を続けていきたいと思っています。



平成 29 年度受講者の皆さん

区域からさまざまなカタチへ

～区域＋CP・包括圏域でカタチいろいろ～

高齢者の居場所としてのサロンや食事会が、区内で100か所を超えました。それまで区域で開催していたサロン連絡会を、区域とCP・包括圏域で開催しています。



神奈川県社協
伊藤 圭子

2 層域

交流・
居場所

生活支援

見守り・
つながり

C 課題解決に向けた支援

B 目指す地域像の一致

A 地域アセスメント

1

取組のきっかけ

神奈川県は、高齢者の居場所“サロン”活動が活発です。

住民支え合いマップや、支え合い連絡会、地福計画（地区別計画）などをきっかけとして、自治会・老人会・民生委員・ボランティアグループなど**様々な主体**により、自治会館・集会所・福祉施設・個人宅・庭先など**様々な場所**において、**より身近な場所での支えあいの形のひとつとして**、高齢者をはじめとした、**誰もが集える居場所“サロン”**が開催されるようになりました。CP・包括との連携もすすんでいます。

オープンから数年が経ち、「参加者が減った・担い手が高齢化した・プログラムがマンネリ化・本当に出てきてほしい人が出てこない・・・」など活動内容について、課題を抱える団体が増えてきました。

また、「他サロンの活動を知りたい、情報交換をしたい」という声もあがっていました。しかし、団体が一堂に集う情報交換では、十分に意見を深めることができませんでした。

そこで、CP・包括圏域でも複数のサロンが開催されているところから、2層Coへ連絡会開催を投げかけました。実際に開催してみると、情報交換だけでなく、連携や新たな担い手の発掘など、地域交流Coや包括が関わり、密度の濃い連絡会となっています。

平成29年度に区民活動支援センターから、自身の特技・経験などを活かしてボランティアで街の先生として活躍する「助っ人BANK」を広く周知したいと相談がありました。

今まで福祉に関わりのない方々へ、(高齢者の)居場所について知って欲しいこと、「助っ人BANK」を社会資源の一つとしてとらえ、サロンなどの地域の居場所と**連携・つながる機会**として、平成29年度より、交流・体験会を共催で開催しています。

一方、区域で何を行うべきか改めて検討した結果、高齢者の居場所“サロン”の目的などについて改めて確認する機会を設けることとなりました。

【連絡会を開催して・・・2層Coの声】

- ・他の情報が聞けてよかったの声や、近くだからこそ、お互いに協力できることがあれば良いね。例えば合同イベント開催とか！多くの意見がありました。終了後には、自然と連絡先を交換しあい、お互いに見学しあっているようです。
- ・CPが会場なので、立ち上げを検討している人に勉強会へ声をかけたことをきっかけに今年サロンがオープンしました。

♡ 1層Coの思い

平成25年度に1か所目のサロンがオープンし、現在、約100か所のサロンが開かれています。

主体・内容ともに様々ですが、近くなら参加できると“身近な場所”“顔のみえる場所”で開催しようという意識が浸透してきていると感じています。

●CP・包括圏域

サロン連絡会、高齢者・子どもを含めた居場所連絡会など、2層Coが中心となって連絡会を開催しています。

まずは、同じエリアで開催しているのを知っていると思っていたら、意外とお互いを知らなかったり…と、自己（団体）紹介からはじめています。

情報交換の他、悩みについて話し合ったり、おすすめプログラムを实际行ってみたり、子どもの居場所と合同で開催するなど、それぞれ趣向をこらしています。

参加者同士、お互いのサロンを見学し合うなど、新たな活動につながりそうです。

●区域

サロンだけでなく、デイサービス・食事会などを開催している団体を対象に開催。

○サロン・居場所 × 街の先生「助っ人 BANK」交流・体験会

体操や折り紙・手芸・回想法・・・様々な街の先生と、サロンなどの居場所を開催している皆さんが顔をあわせました。実際に見て・聞いて・体験して・・・。

自分たちはおしゃべり中心！と改めて確認されたサロンや、プログラムで悩んでいたサロンでは、簡単な体操や手工芸などのプログラムを参考にしたり、街の先生を講師として招くなど、参加後の様子も様々に発展していきました。

平成30年度は「担い手と受け手ではなく、誰もが担い手」の意識を高めるため、ミニ研修会もあわせて開催します。



○区域研修会

平成30年度は、サロンの開催目的などを確認する機会として開催。

お手伝いとして途中から参加した方や、開催することが目的化してしまった

サロンへ「なぜ身近な場所で開催するのか。顔の見える関係づくりのきっかけの他、様々なニーズに気づく場であること、誰もが担い手になれる場所であること、自身も楽しもう」などを研修会でお伝えしています。

8月サービス・サロン・ミニデイ
合同研修会のご案内

日時：平成30年11月15日(水) 13:30～15:30
場所：かなづつホール（東区）

内容：1. 講演「はなはたる人も育ん中」
2. 自由参加型ワークショップ

申込・申込先：市立社会福祉協議会
電話：311-2014 FAX：313-2420

参加費	無料
申込先	市立社会福祉協議会
申込期	11月10日まで
申込先	市立社会福祉協議会
申込先	市立社会福祉協議会

まだまだ増えている地域の「居場所」。身近で顔の見える場所だからこそ“きっかけ”参加できる場所、CP・包括が関わっているからこそ身近な相談ができる場所となっています。

サロンがわずか数年で数多く立ち上がったことで、情報交換を密にできるCP・包括圏域と、目的などを伝え続けていく区域の連動したつながりができました。

サロン内での気づきや、CP・包括圏域の連絡会などであがった共通課題に対して、区域の研修会を始めとして、解決の糸口を提供できるよう、2層Coとともに検討していきます。

空き家を活用した場づくり

～「Yワイひろば」の取組～

磯子区で初めての「空き家活用をした地域の場づくり」。オーナーから相談を受けてから地域で使われる状態に至るまでの経緯をご紹介します。



磯子区社協
井上 佳代子

1.5 層域

交流・
居場所

生活支援

見守り・
つながり

C 課題解決に向けた支援

B 目指す地域像の一致

A 地域アセスメント

1

取組のきっかけ

平成 28 年 9 月に近隣区在住の空き家オーナーから「磯子区に一軒家を持っているのだが、**空き家になってしまったので、福祉で活用いただけないか**」と相談がありました。この家は元々オーナーのご両親が住んでおり、その後は借家として貸し出していました。メディア・報道などで空き家問題や活用について取り上げられていることを知り、ホームページで相談先を調べ区社協に電話を入れたとのこと。

京急線 杉田駅から徒歩数分のところですが、近くには地域活動に利用できる場が少なく、屏風ヶ浦、杉田の両地区で活用できる場として様々な展開が考えられました。そのため、当初から**屏風ヶ浦 CP・新杉田 CP の 2 層 Co** とともに打ち合わせ、地域情報や地域ニーズを共有し、活用に向けての道筋を立てていきました。併せて、区役所（地域包括ケア担当の高齢・障害支援課と空き家相談の窓口である区政推進課）にも報告し、情報や状況を共有していました。

現地へは区役所、CP、区社協職員で見学し、懸案事項や賃料などについて率直な意見交換・話し合いをしました。



名前の由来の一つ、Y字型
のビワの木が目印です



前入居さんが丹精こめて
手入れしていたお庭

♡ 1層 Co の思い

研修で空き家や空き店舗を活用した場を見ていたので、「磯子区でもそのような場づくりに関わったら良いな」と呟いた数日後、相談があったので驚きました。**オーナーとの関係構築**を大切にしながら、「**地域の居場所**」のイメージを伝えていました。様々な事情で立ち上げには時間がかかりましたが、その間も定期的に連絡し、状況を伺っていました。



空き家のオーナーさん

空き家の活用をお願いした最大の理由は、金沢八景から出向いて家の管理をする大変さです。幸いにも古い家を気持ちよく使って頂けるような改修を、借りて頂く方をお願いできました。地域の皆さんから空き家がお荷物になるのではなく、逆にこれからはコミュニティの場として有効に活用して頂ければありがたいです。

◆直面した大きな問題。「管理者」と「賃料・修繕費などの経費の確保」

管理者をどうするか、導入・ランニングコストをどうするか。適当な団体や助成金がなく、諦めかけていたところ、(株)太陽住建が引き受けてくださることになりました。太陽住建は、横浜型地域貢献企業の認定を受けており、CP 事業に協力したり、リビングラボに取組んでいます。オーナーと賃借契約を結び、その後もオーナーに確認をとりながら太陽住建、区社協、CP を含めて話し合いを重ね、2 階の各部屋は NPO 法人や団体などのオフィスとして、1 階は地域の方々に活用いただく場とすることが決定しました。改装・修繕や耐震確認の費用も(株)太陽住建が負担してくださり、整備が進みました。区社協や CP は地域特性やニーズを伝え、1 階の貸出ルールについてアドバイスし、地域の会合などでの周知に協力。地域に愛される場になるよう、丁寧に地域へアプローチしました。



改修工事中のリビング

◆『Yワイひろば』を知っていただく！～オープンセレモニーとおひろめ会の開催～



オープンセレモニーの様子

この場は『Yワイひろば』と名付けられました。

認知度を高めるために、太陽住建が地域活動者や関係機関を中心にオープンセレモニーを開催。

その後のおひろめ会は誰もが参加でき、見学に加えて、企業の強みを生かしてワークショップを開催しました。



リニューアルしたリビング

ちょうど、自治会館のサテライトを探していた時期だったので、その検討もしましたが立地条件が合わず、話は振出しに戻ってしまいました。オーナーとしては借家にする案もあったようですが、地域での居場所づくりのニーズの高さを伝えたところ「地域で使ってもらえるとありがたい」というお返事。地域の方に愛される、ワクワクする場づくりの支援をすることに改めて気が引き締まりました。

相談当初から2つのCPの2層Coに声がけしていたことは、それぞれの強みを反映しながら場づくりの支援ができたので、とても良かったです。

『Yワイひろば』の活用には、地域の方々による自主的な活用を待つだけでなく、専門職による“仕掛け”や“つながりづくり”が必要です。今後は、地域の方々との場をどのように活用できるかアイデアを出し合う場を設けます（2層協議体）。また、近くには2つの地区が入り組んだ自治会があるので、屏風ヶ浦 CP と新杉田 CP が連携し、高齢者の健康・つながりづくりができる取組みを始めています。

また、食器や備品の寄付を募ったり、イベントなどの周知をするために掲示板を作成。実際に口コミや新聞などで『Yワイひろば』や取組を知った方から冷蔵庫や食器棚、食器などの寄贈をいただきました。利用者は子どもから高齢者、障害児・者まで幅広く考えられるので、オープン後は2層Co、地域交流Coと区役所（福祉保健課）で話し合いをしています。

『Yワイひろば』を地域コミュニティの場に。住民やボランティア、NPO 法人や民間企業など、多様な主体が活用できる場となるよう、Co、区社協を中心に区役所とも連携してサポートしていきます。



PR や周知を目的とした掲示

コーディネーター同士の つながりづくり

～他市区町村活動事例の見学～

区内の生活支援 Co 全員で他市区町村の活動を見学し、活動者や支援者から直接話を聞き、担当地区の地域活動の創出や支援の方法の参考にしました。



緑区社協
松本 賢剛

1.5 層域

交流・
居場所

生活支援

見守り・
つながり

C 課題解決に向けた支援

B 目指す地域像の一致

A 地域アセスメント

1

取組のきっかけ

緑区には2層Coが7名います。そのうちの3年目が3名、2年目が1名、昨年度1月からの1年目が1名と今年度から2層Coになった方が2名います。私自身も今年度からです。

2層Co連絡会の中で“**つながりをつくりたい**”という思いと、連絡会としても今年度何をしたいかという話のなかで、2層Coの皆さんから**他都市の活動事例を見学したい**という提案がありました。研修や事例集などで他の地域の活動事例の紹介はありますが、**現場を見学することで、実際の活動者の思いや支援する側の動き、現実にはどのように事業が回っているのか、利用者の反応はどうなのかなどを把握**することができるのではないかと提案でした。

一人では中々思うようなかたちで見学できなかつたり、話を聞きたいと思う人に会えなかつたりする可能性もあるため、複数名で見学することで目的に合った内容になるのではと考えました。また、自分では気づかなかつた質問や自分とは異なつた視点からの意見・感想などを聞くことで、より深く理解できるという意見も出ました。

見学する活動事例のテーマを選ぶなかで、ある2層Coの担当地域から、コミュニティバスの運営に課題があり、その課題解決の糸口を探っているところから、「**移動支援**」というテーマが挙がりました。同様に2層Coそれぞれが課題に感じていることから、「移動支援」の他、「**通いの場・担い手（発掘・育成）**」のテーマが挙がりました。そこでその2つのテーマにすることにしました。

♡ 1層Coの思い

経験年数が異なり、前職も多種多様な中、2層Co同士の横のつながりや一緒に何かをする機会が無いかと考えていました。

また区内の情報交換だけでなく他の市区町村の事例を、実際に活動している方たちから話を聞いたり間近に見学したりすることで、より多くの気づきを得られる機会になればと思いました。

立ち上げから現在までの話を直接地域住民より聞き、参考になりました。担当地区では買い物支援に向けて準備会が発足しました。



移動支援班から
ふじ寿か園 内海 Co

当事者の主体的な関わりや、相互により良い企業連携の方法などを、担当地域の担い手養成や地域の見守りネットワークにも活かしていきたいと思います。この取組みを通じて、Co同士にさらに相談しやすい関係ができたことも良かったです。



通いの場・担い手班から
長津田 CP 河野 Co

連絡会のメンバーを、「移動支援」と「通いの場・担い手」をテーマにした 2 つに分け、班ごとにテーマに添った見学先を検討することになりました。

まずテーマに添った他の市区町村の事例を探ることから始めました。目的・内容・見学のポイントを記入する「意見シート」を作成して、2層 Co の皆さんに記入をお願いしました。意見シートをもとに事例候補の資料を準備し、2層 Co が見つけてきた事例とともに連絡会で共有し、見学先の検討をおこない、班の見学先が決まりました。

【移動支援班】かないばら苑のサロン送迎活動

逗子鎌倉ハイランドの買い物支援の取り組み

【集いの場・担い手班】町田市認知症カフェ（Dカフェ）の取組みと

民間企業との連携

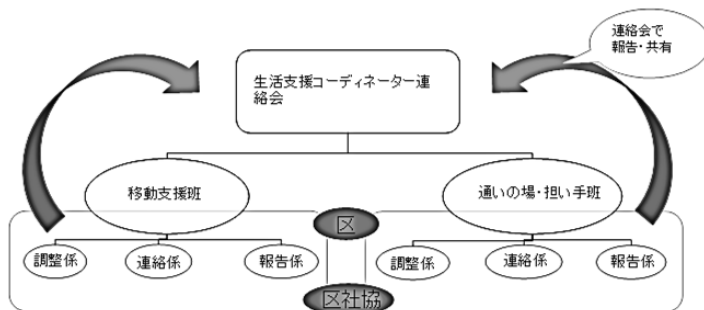
班の中で見学先との日程調整や記録などの役割分担を決め、準備を進めていたようにしました。連絡会では準備の進捗状況や質問事項などの確認と共有を行いました。

時間をかけて準備を進めていく中で、見学が学習に留まってしまうよう目的を再確認したり、Co の役回りを意識したりしながら、Co の視点で臨む必要性など、連絡会担当の CP 所長や区地域包括ケア推進担当係長からの助言もいただくことができました。見学終了後は各班から連絡会の中で報告していただき、連絡会メンバーの中で共有しました。

見学に行くだけで終わってしまってはもったいないと思いました。

事例を見聞きする中で2層 Co としての役回りを考えながら、見学の目的や持って帰りたい情報は何かということ、その上で質問内容などの検討を各班でおこないました。

連絡会のなかで共有し、他の班からの意見も聞きながら準備を進めました。



通いの場・担い手班の2層 Co のうち2人は見学会の後、すぐに町田市認知症カフェに参加してきました。企業の地域貢献と福祉活動とのコラボレーションの事例を実際に見ることで、企業との連携を進めていく足掛かりになりました。今回班単位で作業を進めることで、2層 Co 同士が気軽に意見交換したり、質問し合ったりする横のつながりもできてきました。また、自分たちが見聞きしたことを報告・伝達するという経験の機会にもなりました。

報告を受け、今回の見学先の取組みの中でうまくいったポイントとして次の3点が挙げられると思いました。

- ①当事者の声が根拠となって事業を進められたこと（認知症カフェ）
- ②自治会と施設との関係が前提の土台となって取り組みが実現したこと
（逗子鎌倉ハイランドの買い物支援）
- ③事業を始めるにあたって背中を押してくれた支援者がいたこと
（かないばら苑のサロン送迎）

★地域が異なっても事業を進める上で上記3点は重要なポイントです。今

回の見学会には区役所や区社協の職員も参加し、区内の横のつながり、連携の糸口になったと思っています。



“お互いさま”で支えあおう！

～MSS のさらなる発展～

平成 29 年 4 月に「MSS(マークサポート支え合い)」が発足して 1 年半、新たな取組も始まりました。さらなる発展を続ける MSS について紹介します。

この事例は平成 29 年度の事例集から継続になります。



瀬谷区社協
丸山 敦子

1.5 層域

交流・
居場所

生活支援

見守り・
つながり

C 課題解決に向けた支援

B 目指す地域像の一致

A 地域アセスメント

1

取組のきっかけ

MSS の活動は、高齢になり団地外への買い物や通院が一人ではできなくなっていくことで、家に閉じこもりがちな住民が増えてきたことを受け、住民有志によるお互いさまで支援し合えるグループとして発足しました。

発足当初の活動は、①ちょっとした困り事への生活支援、②野菜やお米、水などの重い荷物の販売をおこなうマルシェ、買い物ついでに立ち寄れるカフェの開催を中心に実施しました。検討事項としては、団地住民の外出支援について、③病院巡回送迎車の団地内ルート増設、④福祉施設の車を利用した買い物ツアーの実施について話し合いを行いました。

①と②の活動については、ボランティア登録者 68 名から、活動ごとに担当を決めスムーズにスタートができましたが、③と④の検討の結果、③病院巡回送迎車ルート増設については、病院との交渉を重ねましたが、ルート変更は難しく現状では実現できませんでした。また、④買い物ツアーについては、福祉施設の協力を得て車両の利用はできる事になりましたが、買い物実施にあたって参加アンケートを実施したところ、希望者がおらず実施に至りませんでした。

MSS が発足して 1 年半が経過し、活動が団地内に周知され、MSS の利用登録者数は増えています。まだまだ、地域には様々な課題がありますが、MSS の活動によって住民相互の支え合いの意識が高まってきており、顔の見える関係作りが進んでいることを住民は実感しています。

♡ 1層 Co の思い

発足当初描いていた活動が全て行えている訳ではありません。検討を重ねたり、交渉を重ねた結果、実現していないこともあります。ボランティアのスキルを最大限に生かし、その時できる活動をより充実、発展させていくことが、ボランティアの意欲や利用者の信頼につながっています。支援する私たちも、活動の流れ、タイミングを大切にしたいと思っています。



MSS 会長代行
西山さん

私たちの活動も早一年半が過ぎ、住民に認知されつつありマルシェ、カフェは好評で参加者も増え、又同時に利用者、ボランティア登録者も増えてきましたが、生活支援活動への要請件数が伸びず、その対策に苦慮しております。然しながら、それは住民自身の他力本願、甘えの精神ではなく出来る限り自前で処理しようとする自意識の現れではないかと喜んでおります。今後もあせらず地道な活動を継続し住民相互の交流に努めたいと思います。

2

取組の内容

現在、MSS では『できる範囲でお手伝いし、相互の交流を深め合う事を目的に』
4つの活動を中心に行っています。

1 家事等のちょっとしたお手伝いをする『生活支援』と『ガラクタ市』

活動開始後 3 ヶ月くらいはほとんど依頼がありませんでした。そこで、**ボランティアの持つ専門知識や技術をアピール**し、サッシの修理やベットカバーのミシン掛け、ランプシェードの修理などの依頼を受けるようになり大好評です。また、部屋の片付け支援の一環として始めたガラクタ市は、「捨てるのはもったいない、誰かの役に立つなら提供したい」という利用者の声から活動が生まれました。**自分の出来る事で誰かの役に立ちたいという利用者の気持ちを大切に活動しています。**

2 団地内でのちょっとした買い物とおしゃべりが楽しめる『マークマルシェ&カフェ』

当初は、地場野菜とお米、お水などの重い荷物になるものを販売していましたが、平成 29 年 11 月から**移動販売車**が来るようになり**男性の利用が急増しました。**現在、**利用者の 7 割が男性**というのが特徴で、**外出の機会と他者との交流**の貴重な居場所となっています。また、年末にお正月に必要な食材やお餅、年越しそばの販売のため臨時マルシェを開催しました。お正月を迎えるのが楽しみになったとの声が多数あり、住民の豊かな生活につながっていると感じています。

3 お役立ち講座の開催

健康に役立つ講座や福祉施設の見学ツアー、単身者向け料理教室などを開催しています。会場に来るのに支援が必要な方は、ボランティアが自宅にお迎えに伺います。自分らしい生活を維持するために役立つ情報を提供し**“自分で出来る事は自分で”**をモットーに支援しています。



4 MSS ニュースレターの発行

年 2 回ニュースレターを発行し、MSS の団地住民に全戸配布しています。原稿は利用者や、平日の活動にはなかなか参加できないボランティアの方へお願いし、特技、趣味の紹介コラムで**知識の提供**を行ってもらっています。**直接的支援だけでなくボランティア活動があることも、ボランティア登録数が増えていることに繋がっています。**



♡ 1 層 Co の思い

1 層 Co として広い視野を持ち、豊富な情報提供、様々な場面のつなぎ役となり地域の後ろ盾としての役割をもって関わっています。

MSS は地域の中の宝物探しがとても上手です。1 つひとつの宝物が地域の財産として活かせるよう、活動に関わる住民、事業者、行政などが自由な発想で十分に議論しあえる場(協議体)を持つことや、地域での生活感覚と共同性を大切にして支援を進めています。

3

今後に向けて

ボランティアが増えるごとにボランティアの特技を活かした支援や交流が増え、さらなる活動が広がることが期待されます。今後は、様々な活動で見えてきた個々のケースを集約して可視化し、住民同士の共助の意識を高めていきます。

MSS の活動が体制整備事業の目標でもある「交流・居場所」「生活支援」「見守り・つながり」の 3 つの要素が満たされた取組になるよう、日々意識した働きかけを行います。

泉サポートプロジェクト始動！

～生活支援体制整備事業との融合～

外出困難者への取組を進める中から「地域のちょっとした困りごと」をできることから取組んでいこう！とはじまりました。

この事例は平成 29 年度の事例集から継続になります。



泉区社協
田村 敦子

1.5 層域

交流・
居場所

生活支援

見守り・
つながり

C 課題解決に向けた支援

B 目指す地域像の一致

A 地域アセスメント

1

取組のきっかけ

泉区は、エリアによっては移動手段が少なく、買い物や地域サロンに行きたくても行かない外出困難な方が多いことが課題となっていました。

そんな中、社会福祉法の改正もあり、施設が多い泉区で体制整備事業と連動して何かできないかという思いから、平成 28 年度に泉区社協専門機関部会（※）でアンケート実施。CM 連絡会にて情報、ニーズ把握を行い、専門機関部会にて検討を進めました。

そこから「地域のちょっとした困り事をできることから少しずつ取り組んでいく」ことを目的にした「泉サポートプロジェクト」が、専門機関部会の部会長でもある天王森の郷鈴木理事長の呼びかけもあり、立ち上がりました。

平成 29 年度には、2 つの CP エリアで歩行に不安のある高齢者を対象に、施設の送迎車で地域の高齢者サロンへの送迎がはじまりました。単なる送迎ではなく、ドライバーや添乗者が施設職員、地域の民生委員、ボランティアさんなど顔見知りの人が担い手として参加する事により、サロンの延長のようなアットホームな交流も車内で生まれています。高齢者食事会などに今まで行きたかったけれど行けなかった方、行けなくなっていた方が久しぶりに参加し友人との再会の喜びの声も聞こえています。

第 3 回よこはま地域福祉フォーラムでは「ネットワークで移動を考える」事例として施設職員、地域の方と発表も行いました。

1 層 Co の思い

事業が始まって 3 年目の中、生活支援 Co として泉区に着任し、不安な毎日でした。

前任者、区関係者、2 層 Co の今までの事業や活動を追いながら、自分が泉区の体制整備事業をストップさせてはいけなないと、関係者と意見や情報を積極的に共有し、ネットワークづくりを進めました。

※専門機関部会：施設を運営する社会福祉法人・NPO 法人・医師会・学校（小学・中学・高校）校長会などで構成されます。現在 103 団体が泉区の部会員です。



天王森の郷 鈴木理事長

専門機関部会で「泉サポートプロジェクト」を提案したところ、当日会議に参加していたほとんどの団体や施設が賛同してくれました。各施設の共通課題で常に人出不足が挙げられるが、本業をおろそかにせず、それぞれ施設ができることを地域と一緒に長く続けることが大切。今後は地区社協や 2 層 Co と情報交換を密にして見守りなどの取組を広めていきたいです。

その後、互いにどのように関わってよいのか接点がなかった地域と施設が、連携できることを考える“初めの 1 歩の場”として、専門機関部会と地区社協との合同会議を開催し「施設と地域のつながり」について話し合いました。

専門機関部会では、住民への周知と施設のモチベーションを上げる必要があると提案があり、「泉サポートプロジェクト」の車両用マグネットシートを作成し、移動困難者への支援を行なっている施設に配布。また、広報媒体を活用するなど活動の周知と拡充を図りました。CP や地域の担い手と連携し現在 21 の施設や団体が地域サロンなどへの高齢者の送迎を行っています。また、送迎支援の強化として、区役所、CP、横浜移動サービス協議会と協力して、2 つの CP エリアでのニーズの掘り起しや人材発掘などの把握を行い、これからも送迎支援が継続し、他地区でも立ち上げができるように区域のマニュアルづくりを一緒に行っています。

「泉サポートプロジェクト」は高齢者を対象にした移動支援だけではなく、施設のトイレや会場の開放、介護講習会の開催や講師派遣、地域イベントへの協力、生活支援などそれぞれの施設などの特性を生かして、様々な地域貢献について取り組むプロジェクトです。現在、それぞれの地域課題にむけて具体的に考えていく話し合いの場としてプロジェクト連絡会が 5 つの CP エリアで始まっています。それと同時に区社協ではエリア連絡会開催支援、サポートプロジェクトの連携強化を目的に 2 層 Co を交えた専門機関部会を開催し、泉区の中で体制整備事業だけではない支援の広がりも視野に入れながら進めています。

専門機関部会と地区社協の合同会議では活発な意見交換ができ、参加した地区社協から「地域に密着した様々な取組を進めてくれている。大切なパートナーとして心強く感じている」と発表がありました。また、2 層 Co も施設・地域と関係性を深めることができました。



泉区には多数の福祉施設、地域作業所や NPO 法人があります。

区社協では、強みである様々な関係機関とのネットワークを生かしながら、2 層エリアでそれぞれの課題に地域性にあった解決方法を提案し、困っている人や地域住民を福祉施設や企業とつなぎ、一緒に考え、住民が孤立せず、元気に笑顔で暮らし続けられる支えあいづくりを進めていきます。

また、生活体制整備も 3 年目を経過し、あらためて地域住民や地元企業などに理解を深めるべくリーフレットの作成、啓発物品を製作し「泉サポートプロジェクト」の拡充を行います。

いずみくで ずっと元気に みんなで くらそう



泉サポートプロジェクト

地域貢献の想いを形に！

～施設を活用したサロン・認知症カフェの誕生～

区内社会福祉施設を対象にしたアンケートとヒアリングから、「地域貢献として施設を地域で活用してほしいが人手が足りない」との声を受け、その想いと地域の願いをつなげています。



西区社協
工藤 さとみ

1.5 層域

交流・
居場所

生活支援

見守り・
つながり

C 課題解決に向けた支援

B 目指す地域像の一致

A 地域アセスメント

1

取組のきっかけ

西区では平成 29 年 11 月に区内福祉 99 施設を対象に「社会福祉施設の地域貢献活動に関するアンケート」を実施し、活動状況や課題などをまとめました。その結果、貢献活動はしたいと考えてはいるものの実現に至っていない施設が半数近くあることなどがわかりました。「連携したいが地域組織が何を求めているか分からない」「活動経費が無い」などがある中、最も多かった回答は活動を始めるにあたり、「施設として職員や時間に余裕がない」というものでした。

施設の想いや考えをさらに詳しくお聞きするため、アンケート集計後には、「何か取組をしたいが職員の人手不足」と回答した 5 施設に 1 層 Co、2 層 Co、区包括ケア推進担当係長と共にヒアリングに出向きました。お話を聞く中で、施設としての地域貢献への強い想いを感じました。

その一方で地域住民組織からは、「施設が日常で何をしているかもっと知りたい」「地域の活動に参加・協力してほしい」と、身近にある福祉施設との関わりを求める声も耳にしていました。

区内では自治会や地区社協などによる住民主体の居場所やサロンがありますが、多様な機関などが連携した取組を広げていく必要性も感じていたため、福祉施設の想いと地域住民の求める声を受け、地域貢献活動実現につなげていけたらと思いました。

具体的に実現させていくためには、ヒアリング実施施設には間をあけずに動いた方が良いため、まずは 3 つの施設に対して、2 層 Co などと共に地域住民などを含めた話し合いの場を設け動き出すこととなりました。

1 層 Co の思い

地域アセスメントをする中で、多様な主体による様々な形態の居場所・サロンの必要性を感じていました。その中で、前年度の福祉施設へのアンケートやヒアリング結果を取組につなげていくチャンスだと感じました。

施設側の想いをヒアリングの時期から熱が冷めないうちに地域につなげていきたかったですし、2 層 Co や区と連携して一緒に取り組む良い機会になりました。



区地域包括ケア推進担当
平野係長

CP が 4 館しかない小さな西区では、1 層・2 層 Co と区役所がきめ細かに連携し、地域の特性に合わせて多様な主体とともに資源の充実・創出に努めています。2 層 Co が地域課題解決に向けて動きやすくなるように、区域情報の収集・整理や多様な団体・組織などへの働きかけを行い、今後も一丸となって取り組んでいきます。

該当エリアの 2 層 Co と区役所とともに、施設の求めるもの、地域側のニーズなどを共有しながら、今後のアプローチについて話し合いを進めました。

●特別養護老人ホームパークサイド岡野ホームの活用（サロンの開設へ）

施設長から「地域の方に気軽に立ち寄ってもらえるように月 1 回程度で部屋を開放したい。施設を知ってもらうきっかけにしたい。」との話を受け、地区社協会長、地区連合会長、民児協会長にそれぞれ相談しました。しかし、既に高齢者サロンなどを活発に実施している地区のため、新しい取組に人手をかけることが難しい状況でした。そんな時、地区センターの職員から、協力してカラオケサロンを開催できないかとのアイデアをいただき、改めて地域住民組織、施設、地区センターとの協議の場を設けることとなりました。地区センターの協力を得ることで、運営の人手が確保され、新たな担い手獲得のための協力体制を築くこともできました。そして 10 月からパークサイド岡野ホームで「カラオケも出来る気軽にお茶が飲めるサロン」が開催されることになりました。

●グループホームフィニックスの活用（認知症カフェ開設へ）

グループホームフィニックスの活用に向けて、2 層 Co が中心となり話を進めるにあたり、2 層 Co の役割を理解している自治会長が人選を進め検討の場が設けられました。元々、「認知症になっても隠さずに当たり前のように生活できる地域づくり！」を宣言している自治会でもあり、参加者には認知症介護経験のある女性部の方や見守りに携わっている民生委員がいたことで、自然に“認知症カフェをつくろう”との動きとなりました。地域の方による認知症研修会開催や自分達が声かけをして周知をしようという意識も生まれ、10 月から月 1 回で認知症カフェがオープンしています。

協議は 2 層 Co が中心となり 1 層 Co は助成金などの活用も含めた運営面での関わりを担いました。

地域住民に協議へ参加していただく場合、キーマンとなる方にお声かけすることが大切だと思います。

フィニックスの活用の際には、介護経験者が自分の体験や思いを語ってくださったことで、全員が一致団結し、認知症カフェ立ち上げの動きが加速しました。担い手も参加者も自分の役割が発揮できる場につながっていきしたいと思います。

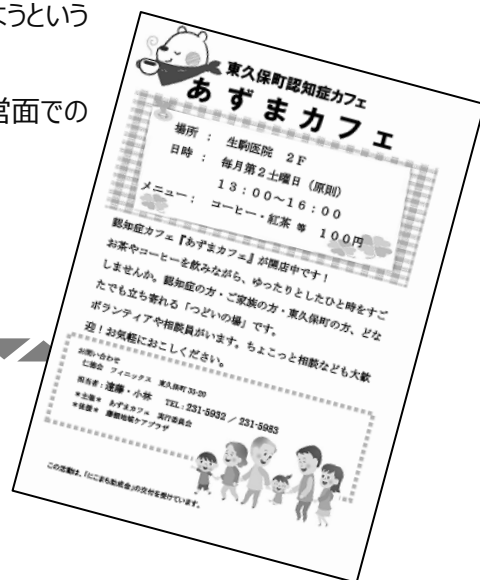
今後に向けて

さらに別の特別養護老人ホームでは、施設長と 2 層 Co を含めて話し合いの場を何回か設けましたが、地域住民のニーズと十分にマッチせず、現在も継続して検討中です。

今後は、他の施設にもヒアリングを実施していき、施設の思いや課題を確認したいと思っています。



そして、新たに立ち上がったサロンや認知症カフェについては、立ち上げの経緯やノウハウ、活動内容についてまとめ、区内に広く発信するとともに、他の福祉施設などの参考事例として活用いただきたいと考えています。さらに、既存の地域資源が充実するように、区内の居場所・サロンなどを実施する団体間の横のつながりづくりの機会を設け、互いに発展できる場になりたいと考えています。



“ちょっとした困りごと”への対応

～グループ組織化から重層的な仕組みの構築に向けて～

区内に生活支援（家事支援）サービスを行う地域団体が殆ど無い中で、区ボランティアセンターが実施した講座から生活支援ボランティアグループが立ち上がり、少しずつ活動が広がっています。さらに、CP 圏域でも“ちょっとした困りごと”に対応できる仕組みを作る動きも出てきています。



中区社協
米本 美穂

1 層域

交流・
居場所

生活支援

見守り・
つながり

C 課題解決に向けた支援

B 目指す地域像の一致

A 地域アセスメント

1

取組のきっかけ

中区では、以前から「病院の付添い」「庭の草刈り」「（家の中での）家具の移動」といったボランティア依頼（ニーズ）がありました。このような依頼が中区ボランティアセンター（以降、区ボラセン）に入ってくると、個人登録ボランティアに依頼したりシルバー人材センターを紹介したりして対応していました。

■～平成 28 年度頃の区ボラセンの様子■

ちょっとした修繕や生活支援等に対応できるボランティアグループがありましたが、体制整備事業が始まった頃は**活動休止状態**でした。また、**退職された男性が**、ボランティア登録をするも、**なかなか活動に結びつかない**現状もありました。

この頃の区ボラセンは、依頼に対応したくても、対応できる担い手が不足している状態でした。

■平成 28 年～29 年度に開催した区域協議体にて■

元々、中区は『区内に生活支援（家事支援）サービスを行う地域団体が少ない』といった特徴（課題）がありました。

「有償サービスの利用で解決できている」「身近な人との助け合いで解決している」一方で、『有償サービスは費用負担が難しく、我慢している』『周囲と繋がりが無く、ニーズすら把握できていない』といったケースへの対応が課題であると確認できました。（平成 29 年度第 1 層生活支援コーディネーター活動事例集より）

このような状況を鑑み、**依頼に対応できる生活支援グループの必要性**と、退職された男性でボランティア登録をしたものの、**活動に繋がっていない人へのアプローチ**の 1 つとして、「生活支援ボランティア講座」を開催する運びとなりました。

♡ 1 層 Co の思い

区ボラセンが講座を開催するにあたり、担い手育成はもちろんのこと、講座受講者（担い手となり得る人）が自分の身近なところで「顔の見える関係」が築けると良いと考えていました。

参加者自身が地元を目を向けてもらうきっかけとなり、社会参加の機会や介護予防に繋がることを期待しました。

【立ち上げに際して…】

CP に寄せられる困りごと（生活支援に関するもの）をまとめ、メンバーに伝えることで、住民にとって身近な困りごとを知ってもらい、活動内容に活かしていただきました。

【立ち上がったから…】

生活支援 KBT（希望の友）の活動を広めるための周知の場として、区内各 CP が主催する「サロン」や「ケアプラザまつり」などで包丁研ぎを実施していただき、好評の声が上がっています。



新山下 CP 木村 Co
麦田 CP 荻野 Co

2

取組の内容

平成 29 年度秋に、生活支援ボランティア講座（4 回講座）を区ボラセンが開催しました。（庭木の剪定、障子の張り替え、包丁の研ぎ方、ボランティアの心得）



全 4 回講座の後には「フォローアップ」と位置づけ、生活支援ボランティアグループの組織化に向けて話し合いの場を持ちました。この場には、講座受講者 9 名中 6 名が参加し、2 層 Co も出席しました。

区ボラセンからは、「（ボラセンに依頼のあった）具体的な家事支援ボランティアの事例」の話をし、現状についてお伝えしました。

2 層 Co からは「CP で把握している具体的な困りごと」をお伝えすることと合わせて、相談者の中には、家事支援を頼みたくても近所の人には知られたくない相談者もいて、**圏域だけではなく区全体の生活支援グループがあると助かるのでは…といった 2 層 Co ならではの視点**で話をしてもらいました。CP に入ってくるボランティア依頼の現状をお伝えすることで、参加者自身もイメージができたのではないかと思います。

区域、圏域の現状の話を聞いた参加者から、「中区の状況も分かったし、何から始められるか分からないが、まずはやってみよう！」といった声上がり、グループ化への一歩を踏み出しました。

♡ 1 層 Co の思い

生活支援ボランティア講座が始まる際、区ボラセンの後方支援と合わせ、2 層 Co には講座受講者たちの「活動の場」について相談していました。

思いを持った人も多くいることから、地元を目を向けてもらうきっかけになるような仕掛けが必要と感じたこともあり、2 層 Co 連絡会を活用し情報共有を丁寧に行いました。

グループ名：生活支援 KBT（希望のとも）

活動内容：（原則として）65 歳以上の高齢者のみ世帯、障害者世帯等の“ちょっとした困りごと”に対応する

3

今後に向けて

生活支援 KBT（希望のとも）が立ち上がり、平成 30 年度は「**グループの存在や活動を知ってもらおうキャンペーン**」と称し、CP 事業のサロンやお祭りにメンバーが出向き、包丁研ぎをツールに啓発活動をしています。

その効果もあって、具体的な生活支援（庭の草刈り、障子張り、外出付き添い、水道のパッキンの交換等）への依頼も入ってくるようになり、少しずつですが対応しています。

そして、CP 圏域でも「**より身近なところでのお互いさまの活動**」が展開し始めています。

総合相談から把握したニーズやアンケート調査から見てきたニーズを根拠に、**CP 主催の DIY 講座**を開催し、担い手募集をしてグループ化し、依頼も入ってきて対応しています。

他にも、「**生活支援 KBT の活動と地元企業の地域貢献の取組**を活用して、**地域の中の助け合い活動にしてい**くことができないか？」と 2 層 Co に提案してきた民生委員さんもいらっしゃいます。

今後も 2 層 Co と連携をしながら、より身近な地域にも目を向けて**重層的な関わり**が持てるような**仕組み**を構築し展開していくことができるよう、**生活支援に対する活動を広めていきたい**と考えています。



掃除の便利グッズと楽に掃除ができる知恵を集めて大公開！

区社協と各 CP の広報紙等で集めた「掃除の便利グッズや知恵」を南区の広報紙や区民向けイベントで公開し、掃除情報と生活支援 Co の PR を実施しました。



南区社協
野々村 まなみ

1 層域

交流・
居場所

生活支援

見守り・
つながり

C 課題解決に向けた支援

B 目指す地域像の一致

A 地域アセスメント

1

取組のきっかけ

体制整備事業が始まった 2 年目となる平成 29 年度、生活支援 Co の連絡会で「生活支援 Co を知ってもらうにはどうしたらいいか」という事が話題になりました。

そこで立ち上げたのが「生活支援みなみプロジェクト」(以下、みなみ PJ) です。

みなみ PJ では、次の目標を掲げて検討を進めました。

- ① 生活便利グッズやニーズ等の情報収集および情報提供
- ② 生活支援につながる講座などの実施
- ③ 体制整備事業の広報ツール作成

検討する中で、次の方向で話し合い、実際に取り組むことになりました。

「高齢者の自助力を高めるためには、誰かに頼らなくても、なるべく楽に生活できる方法を知ってもらうことが必要ではないか」



「高齢者が最も負担に感じている家事は掃除というデータが多い。」

掃除が楽にできる方法を知ってもらうことで、生活支援につながるかもしれない」



「生活支援 Co が協力して情報を集めて、広報紙や区民向けのイベントで公開すれば、多くの人に伝えられる。また、生活支援 Co の PR にもなるはず！」

♡ 1 層 Co の思い

「生活支援 Co を住民に知ってもらうにはどうしたらよいか」

最初の出発点は私たちの PR でしたが、みんなで話し合っているうちに、「そもそも生活支援とは何だろう」という疑問が出てきて、掃除の情報を集めるという展開になるのが予想外でした。

それでも、生活支援 Co 全員で取り組んだことで、面白いアイデアが次から次へと飛び出し、生活支援の奥深さを感じることができました。



みなみ PJ の皆さん

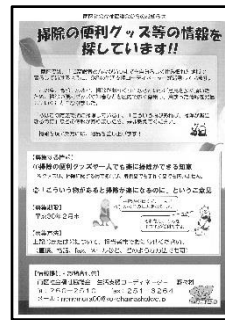
今年からプロジェクトに関わったため、最初は目的などがわかりませんでしたが、みんなで一緒に取り組んで楽しかったです。また、イベントで生活支援 Co を PR したことで、来場者の反応がよくわかりました。

今後もプロジェクトだからできることに取り組んでいきたいです！

※2 層 Co(3 名)の意見です。

【平成 29 年度】

- 区社協と各 CP が発行する広報紙やチラシを活用し、掃除の便利グッズや楽に掃除ができる知恵を集めました。
- 広報紙を見た住民等より、掃除に関する情報が約 100 件も集まりました。
- みなみ PJ では、集まった情報を整理し、どのように住民へ公開していくか、話し合いを何度も重ねました。

掃除情報を集めた
区社協のチラシ

【平成 30 年度】

- 集めて整理した掃除に関する情報（一部）を区社協と各 CP の広報紙に掲載し、区民に広く公開しました。
- 10 月に開催された「南区健康福祉まつり いきいきふれあい南なんデー」にて初めて情報を公開し、生活支援 Co の PR も実施しました。

《南なんデーで公開した内容》

- ① 掃除の便利グッズ（21 個）の展示 ⇒ グッズを実際に見て触れる！
- ② 体験コーナー
 - ア 針金ハンガーにストッキングをかぶせる
 - イ 割ばしに布を巻きつける
 - ウ ハンドクリームを塗ってシールをはがす ⇒ 簡単なシールはがしの体験ができる！
- ③ 「楽に掃除ができる方法」の上映 ⇒ 映像を見ると、やり方がよくわかる！
- ④ CP、生活支援 Co、掃除情報の公開 ⇒ クリアファイルと共に情報を持ち帰れる！
- ⑤ 来場者には地域活動や生活支援のニーズを把握するアンケートを実施（約 300 名回収）
⇒ アンケート回答者には、生活支援 Co のオリジナルバッグをプレゼント！

生活支援 Co デザイン
オリジナルバッグ

いきいきふれあい南なんデー「掃除の便利グッズ等の情報コーナー」

僕も参加
したよ！

掃除の情報を公開するという、生活支援 Co としては、他に例のない取組に挑戦しましたが、区民向けのイベントを活用して PR することで、高齢者だけでなく幅広い世代の住民に伝えられることを学びました。

今後は、みなみ PJ を中心に生活支援 Co 全員で、取り組む内容を改めて検討していきますが、生活支援 Co の役割や得意とすることをもっと住民に知ってもらえるように周知していきたいと思います。

旭区食品スーパー・ドラッグストア 配達サービス一覧の作成

～旭区生活支援コーディネーター連絡会の取り組み～

2層Coが地域アセスメントを行う中で、買い物困難な人が多いことに気がつきました。様々な課題解決方法の1つとして、各店舗で実施している購入した商品の配達サービスを冊子にまとめて発行しました。



旭区社協
梅木 博志

1 層域

交流・
居場所

生活支援

見守り・
つながり

C 課題解決に向けた支援

B 目指す地域像の一致

A 地域アセスメント

1

取組のきっかけ

生活支援 Co の活動は、地域を知ること、困りごとを知ることなど、いわゆる「地域アセスメント」から始まります。そのためには、①「地理的要因の分析」（地形、標高差、店舗のある場所への距離、宅地開発されてからの年数など）、②「統計データの分析」（高齢者数、一人暮らし高齢者数、要介護認定者数など）、③「社会資源の調査」（生活支援の取組状況や集い・交流の場実施団体の調査、活用できそうな場所や活動の調査など）、④「地域の活動を知る、地域の人を知る」（地域の活動を知る中で、活動者、参加者と関係性を作っていくなど）、⑤「地域の高齢者の困りごとを知る」（地域の活動の中で話を聞く、CP に寄せられる相談から困りごとを知るなど）ことなどがが必要です。それら5つの項目を総合的に捉える中で「地域課題」を見つけ出し、その課題を地域の皆さんと共有し、話し合いを重ねながら解決に向けて進めていくことが、生活支援 Co 活動の基本です。

各2層Coが困りごとを聞く中で、「坂が多くて買い物に行くのが大変…」、「お店が遠くて出かけるのが大変…」、「買った品物を持ち帰るのが大変…」などの買い物に対する困りごとが多数あることが分かりました。

旭区生活支援 Co 連絡会では、「買った品物を持ち帰るのが大変…」という困りごとに着目し、その解決に向けて1、2層Co全員で取り組むことになりました。

1層Coの思い

生活支援 Co の活動のベースとなるのは地域アセスメントです。しかし、地域アセスメントは、単にデータの分析だけではありません。一人ひとりの困りごとに丁寧に寄り添うことが大切です。旭区生活支援 Co 連絡会では、昨年度からほぼ毎月、勉強会を開催し、その視点を学び合ってきました。結果として、お互いに高め合うことにつながっています。



今宿西 CP 遠藤 Co

冊子を作成するにあたり、担当地域内の店舗に何度となく足を運び、店長さんに趣旨を説明したり、配達サービス内容の確認、店舗外観写真の撮影や掲載許可等の確認をしたりしながら進めました。以前から、広報紙の配付で毎月訪問していましたが、この取組の中でさらに関係が深まったと感じています。

2

取組の内容

♡ 1 層 Co の思い

作成にあたり大切にしたのは「出かける」こと。
買い物には品物を買うだけでなく、①店まで出かけることによる「健康維持」、②店や道中で知り合いに会うことによる「交流」や「見守り」、③友人や店員などと話をすることによる「心の介護予防」などの効果があります。それらをできる限り継続できるよう、生活に特に密着している食品スーパーの配達サービスに着目しました。しかし、店舗ごとにより利用条件が違うことが分かりました。そこで、2 層 Co がサービスの内容確認と掲載許可を取りに各店舗を周り、調査を行いました。

また、周っている際に、ドラッグストアでも食品を扱っていて、配達サービスを行っていることが分かり、掲載リストに加えました。その結果、27 店舗を掲載した冊子ができ上がりました。



完成した冊子！

旭区には 13 名の 2 層 Co がいます。また、着任前の福祉職の経験や Co 歴の長さも様々です。しかし、全員で各店舗を周り、調査し、情報入力をして、1 ページ、1 ページ、作成していきました。その過程で、この冊子を作る目的や意義を共有することができました。構想から完成まで約 1 年がかかりましたが、冊子という目に見える成果が出たことで、各 2 層 Co の自信にもつながりました。



神奈川新聞にも掲載

冊子は各 CP での配布の他、必要な店舗分だけ入手できるように工夫しました。また、区内の CM にも配布しました。さらに、区社協ホームページではデータ版を掲載しています。さらに、高齢者だけでなく子育て中の方にもご活用いただくため、子育て支援拠点にも配布しました。

3

今後に向けて

買い物の課題は、配達サービス一覧の冊子作成だけで解決するものではありません。「坂が多くて買い物に行くのが大変・・・」、「お店が遠くて出かけるのが大変・・・。」という課題に対しては今後も継続して対応を考えて



左近山地区のおでかけワゴン

いかなければなりません。その解決策の一つとして、旭区では「移動販売」の取り組みも始まっています。また、買い物に行くための移動手段として、地域のボランティアによる「おでかけワゴン」の取り組みも行われています。



川井地区の移動販売

いくつになっても自分の力でできる限り出かけてもらい、移動手段のサポートが必要な人にはそのサポートの方法を考え、遠出ができなくなった人には近くまで来る移動販売のような方法を検討し、出かけられなくなった人には家まで届けるような、一人ひとりの困りごとに寄り添った買い物支援の方法を今後も検討していきます。

地域包括ケアシステムが 団地を救う！

～地域×企業×医療機関×大学による活性化 PJ～

団地全体で一人ひとりの困りごとに向き合い、課題解決のために住民のみならず、企業、医療機関、大学、支援機関の知恵を集約し、協働した住民主体の「まちづくり＝地域包括ケアシステムの構築」に取り組んでいます。



戸塚区社協
山川 英里

1 層域

交流・
居場所

生活支援

見守り・
つながり

C 課題解決に向けた支援

B 目指す地域像の一致

A 地域アセスメント

1

取組のきっかけ

約 400 世帯のうち、一人暮らし世帯が全体の 52%を占め、そのうち 55%が高齢者となっている県営団地。更に、病気や生活困窮、社会的孤立など複合的な課題を抱えている世帯も多く、**日常的な住民同士の支えあい活動に加え、専門職による支援、そして複雑化する課題解決のためには民間企業など多様な機関との連携が必要不可欠**となっていました。区内には、同様の課題を抱えている団地が多くあったことから、1 層 Co として**この団地の課題解決に向けた取組・成果をきっかけに他地域へも波及させていくことも念頭におき、住民と一緒にプロジェクトを始動しました。**

この団地が抱えていた課題は主に次の 4 点でした。

- ① 高齢化の一層の進行による**生活や介護等に不安を抱える高齢者の増加**
- ② **加齢による身体機能の低下により、外出機会が減少し「食」の衰えや意欲の低下等から閉じこもりになる負の連鎖が発生＝重篤化・重症化の危険性**
- ③ **担い手不足が発生し、コミュニティ活力の低下**
- ④ **誰でも安心して参加できるコミュニティ活動の場（活躍できる場）がない**

これらの現状や課題を踏まえ、この団地で誰もが豊かな人間関係に囲まれ、社会的な役割をもって生き生きと生活できる環境をみんなで作っていく取組を始めることとしました。取組の内容については、**自治会を中心に、団地の住民だけではなく近隣地域の自治会長、ボランティア活動団体、病院、大学等も参画した「推進協議会」も立ち上げ協議・検討を進めました。**

1 層 Co の視点

思いや困りごとを共有することで、人は「つながり」ます。事前に協働したい組織・機関を見立て、協議体への参加を促す視点が必要になります。

課題を抱える人や高齢者が多く居住する団地では、新たな担い手を探すことは砂漠で金を探すぐらい難しいこと。

それでも一人ひとりの「困った！」に対応していくため、住民以外の協力者を積極的に見つけていきたいと思っています。



清水豊司 自治会長

1 層 Co の思い

高齢者だから、障害者だから、子育て中だからという理由で単純に支援の手を差し伸べるのではなく、「自分でできることは自分でする！」という意識を住民が持ち、**個に力をつける自助力向上の取組を展開しながら、自分ではできないことを住民同士の支えあい・助けあい活動や様々な専門機関、企業等と連携した支援体制を、地域とともにつくっていく必要があります。**



最初に実現した病院送迎

協議の結果、3つの取組を設定し約2年をかけて実現させました。

●「ふれあい東戸塚ホスピタル」による無料シャトルバスの運行＝移動支援

事前に住民一斉アンケート調査を実施。住民の現在の通院状況の確認や希望する受診科を把握、その結果を病院へ提示し協力を依頼しました。現在は団地内にポイントを2か所設け、無料で週2日、1日1往復運行しています。

●民間企業「イオン」による移動販売車の導入＝買い物支援

事前に住民へ買い物アンケート調査を実施。買物支援だけではなく、介護予防、見守り・安否確認、交流による「つながり」の構築、孤立防止の効果もある「移動販売車の導入」が効率的・効果的な方法であると判断し動き始めました。打診をしたスーパーの中で協議の場についてもらえた「イオン」と何度も協議を重ね、週1回から始まった移動販売も、売り上げが好調であることから現在では週2日、ポイントを3か所設け実施しています。実施の際には、CPの包括職員が可能な限り立ち会い、**イオン側がキャッチした住民の異変や気づきを放置することなく、支援へとつなげる体制**も同時につくっています。

●空き室を活用した交流拠点「憩いの部屋」開設＝つながりの構築、自助力向上

県側へ要望し、空き室を利用した常設の拠点を開設。趣味の講座やサロン等の開催に加え、**ふれあい東戸塚ホスピタルや湘南医療大学の全面協力のもと、週1回、医師や看護師、理学療法士、教授や看護学生による健康教室**を実施しています。医療機関・大学による健康相談や血圧測定、足浴、健康体操等、専門職によるアドバイスを受けながら、効果的な介護予防や、いざというときに対応できる身体づくりへとつながっています。



看護師による足浴

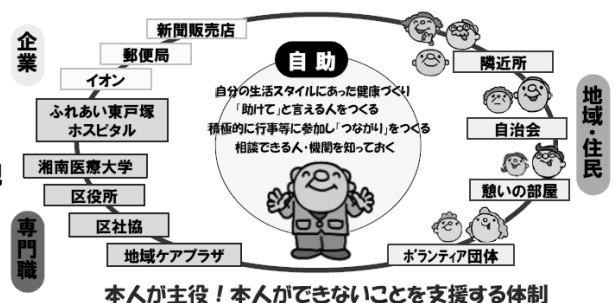


イオンによる移動販売

当初予定していた3つの取組から、現在では更なる拡がり・展開として、**ふれあい東戸塚ホスピタル**による、区内初の医療機関による**無料個別訪問**が始まりました。病院が主体的に関わることで、医学的な見地から、その人にあった支援へとつなげる取組です。近隣住民や自治会から、自分から一歩を踏み出せない気になる住民の情報を受けて、週1回病院職員（看護師、PT、相談員）が個別に自宅を訪問しています。この取組は、重篤化・重症化する前のゲートキーパー的な役割を果たしています。また、憩いの部屋での**内科医による懇話会**も始まりました。医師が、医療や保健に関する旬な話題や情報をわかりやすく伝えたり、同じ医師が個別の相談に丁寧に対応・助言しています。今後は、**医師が無料で個別訪問を行うことも視野**に入れて展開しています。

そして、1層Coとして**この団地の3本柱の取組・成果を他地域へ伝えていった結果**、買い物支援や移動支援について検討し、自分たちの地域の特性にあった解決策として、**社会福祉法人・施設と協力体制を築き施設所有の車両による買い物送迎**を始めた自治会も多々あります。

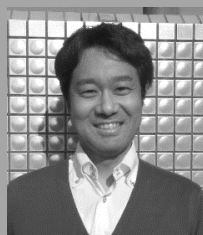
1層Coは、区社協の強固で多様なネットワークを生かしながら、企業や医療機関、社会福祉法人等、**日常的に広域で事業を展開している機関と連携する際には、スタートは小地域エリアでも、将来的には区域さらには市域での展開も視野に入れた働きかけ**を行っていきます。



ちょこボラと CM と私たち

～地域住民に必要な情報を届けるために～

地域住民による支援と専門的な支援の関係づくりが求められていることから、両者をつなぐツールとして、ちょこボラ団体の紹介冊子を作成しました。



栄区社協
倉田 真吾

1 層域

交流・
居場所

生活支援

見守り・
つながり

C 課題解決に向けた支援

B 目指す地域像の一致

A 地域アセスメント

1

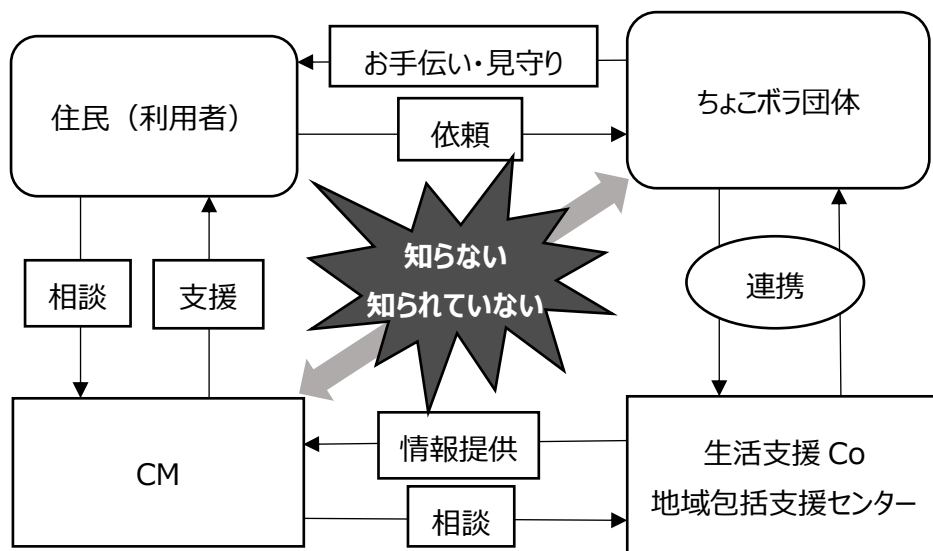
取組のきっかけ

ケアマネ勉強会や介護予防マネジメント研修で CM たちとの意見交換や日頃受ける相談をとおして、**地域のインフォーマルサービスの情報が知られていないことがわかりました。**

CM から「介護保険サービスでは対応しにくい“ちょっとしたこと”に困っている」という声を多く聞きました。**栄区で活発に行われているちょこボラ(日常生活のちょっとしたことのお手伝いをするボランティア)団体の情報は個別に情報提供をすることはあるが、広く発信できていないことに気づきました。**

♡ 1 層 Co の思い

区域の CM 勉強会で体制整備事業について説明し、CM と生活支援 Co が意見交換できる場をつくりました。そこでは「区内にちょこボラ団体がこんなにあるなんて知らなかった」「たまたま他の CM から情報を聞いて知った」という発言を聞き、インフォーマルサービスの情報を発信していく必要性を強く感じました。



中野 CP
竹内主任 CM

CM さんに地域で活躍するちょこボラさんのことをもっと知って欲しい、そして担当している方が、できるだけ住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、CM さんとちょこボラさんが楽しく協働して欲しいと思い懇談会を企画実施しました。(次頁参照)

しかし 1 回だけではまだまだ理解を深めるまでには至らず、こうした取り組みは、何度も積み重ねていく必要があると思っています。

2

取組の内容

♡ 1層 Co の思い

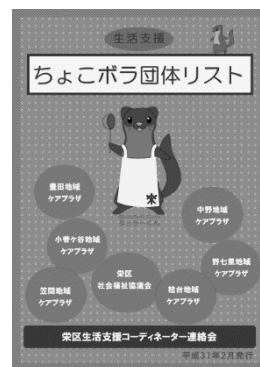
生活支援 Co は CM から個別に相談を受け対応していますが、区域でまとまって発信しているものがないため、**ちょこボラ団体の紹介冊子を作成し、発信**することにしました。

ちょこボラ団体のリスト作成にあたり、掲載団体、様式、配布先、発行部数など、2層 Co と話し合いを重ねました。このリストを活用する CM など専門職の方々へ、**地域のボランティアさんたちがどういう思いで活動しているのかという趣旨をきちんと伝えることが重要**であると確認して進めました。

CP、区社協で分担し、区内のちょこボラ団体に掲載の確認を取る中で、活動内容の詳細や団体の思いなどを聞くことができました。

完成した冊子は、区社協から区域での会議等での発信、CP は包括圏域の事業所や民生委員などへ説明し配布しました。これにより、生活支援 Co と関係機関の方々との顔の見える関係づくりにもなりました。

この冊子に掲載している団体は、高齢者のみを対象とした活動だけでなく、障害のある方や子育て中の方などでお困りの方も支援する団体もあるため、幅広く関係機関に発信しています。



CM からよく聞かれることのひとつに、「介護保険を使っている本人が活躍できるような場はないか」があります。日頃、サービスを受けて過ごしているが、披露できる特技があったり、ちょっとしたことならお手伝いできることがあります。本人の「生きがい」となるような機会や地域での居場所を増やしていく、地域住民みんなで地域づくりを進めていくことを目指したいです。

3

今後に向けて

栄区ではこれから**ちょこボラ団体が立ち上がっていく**と思われます。団体の情報を定期的に集約し、引き続き更新した情報を発信していきます。

この冊子が活用され、必要としている地域住民に情報が行き届き、ちょこボラ団体のような**地域のボランティア**と CM などの**専門職とが一体となって住民の生活ニーズに応えていく**ことが期待されます。地域のインフォーマルサービスは、他にもサロンや介護予防の体操教室などまだまだ十分に情報が発信できているとはいえません。今後は、「地域活動・サービスデータベースシステム」*のデータを整備し、活用していきます。

また、すでに取り組み始めている CP もありますが、包括と生活支援 Co の連携によって包括圏域における**ちょこボラ団体と CM などの専門職との交流**が深まっていき、包括圏域だからこそできる両者の**関係づくり**が行われることで、**見守りの輪が広がっていく**ことと思います。



中野 CP で行なわれた
ちょこボラ活動者と CM との
懇談会の様子

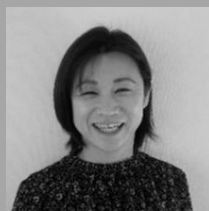
* 横浜市全域のインフォーマルサービス情報について生活支援 Co をはじめとする CP や区社協が集約したデータベースシステムです。

笑顔の輪を広げませんか？

～地域のくるまで地域をまるく～

ひとりの夢を叶えることから始まった活動が区域全体のネットワーク構築へとつながった「港南おでかけ〇〇たい」の取組について紹介します。

この事例は平成 29 年度の事例集から継続になります。



港南区社協
若尾ちづる

1 層域

交流・
居場所

生活支援

見守り・
つながり

C 課題解決に向けた支援

B 目指す地域像の一致

A 地域アセスメント

1

取組のきっかけ

平成 28 年秋にデイケアセンターを運営しているパナソニックエイジフリー株式会社から、「昼間空いているデイサービスの送迎車を、地域貢献で使えないか」と区社協に提案がありました。

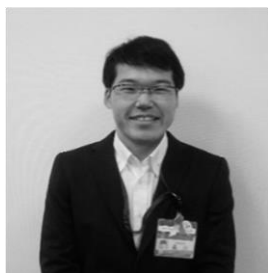
同時期に、支援者から「要支援 1・2 の方は、何とか自分で生活をしているけれど、**移動手段さえあれば、買い物や外食など更に豊かな生活ができる**」という思いを聞きました。そこで高齢者の方が自立しながら生きがいを持って生活を送ることができるための手段の 1 つである「**車両による外出**」について取組をはじめました。

平成 29 年 6 月の東永谷 CP の買い物ツアーをきっかけに、同年 10 月には日限山 CP にて買い物ツアー、港南中央 CP にて買い物支援、下永谷 CP にて地域の食事会など徐々に活動が広がり始めました。平成 30 年 12 月までに実施回数 18 回 協力事業所 16 か所となりました。「外出」後、参加者・ボランティアの新たなつながりや、日頃の見守りへと発展しました。

外出手段を考えることをきっかけに、個人の外出にとどまらず、「誰もが安心して暮らせる地域づくり」を目指すことになりました。企業・事業所・近隣住民の協力を得ながら、参加者の**諦めていた思いや希望の実現と「生きがい」づくり**、また、**参加者とボランティアの新たな繋がり、ボランティアの活躍の場の創出**を目的に 1 層協議体を開催し、仲間を増やして区域に広げる取組へ発展していきました。

♡ 1 層 Co の思い

外出にとどまらず、参加者、ボランティアの方の「生きがい」へつながるよう“笑顔・夢・楽しみ”の充実のために取り組みを進めてきました。



区地域包括ケア推進担当
品川係長

第 1 層協議体は東永谷 CP で実施した取組を区域で取り上げ、他の地域にも広がっていったボトムアップのよい例だと思います。ツアーでは外出支援をきっかけに広がる笑顔の輪を目の当たりにしました。チラシは複数の場で得た意見を踏まえ、1 層 Co と担当職員と検討を重ね完成しました。「おでかけ〇〇たい」というネーミングには「応援」人と人・地域・企業をつなぐ「縁」「輪」「円」や「〇〇したい」といった意味を込めています。車両だけではない地域貢献の取組が区域で広がっていくので今後の展開が楽しみです。

1層協議体のメンバーは車両での送迎活動を行っている地区社協の方・デイサービス事業所・福祉施設分科会から特別養護老人ホーム施設長やCP所長・主任CMなど包括職員・2層Coなどの15名です。そこから2つの取組を行っています。

取組1：仲間を増やし、区内の仕組みとするためのチラシ作成

協議体の中で、「多くの方が諦めていた『思い』を叶えられるよう、この取り組みの仲間を増やし、区内に広げよう」という声があがり、思いの共有に向けて“笑顔の輪を広げませんか？”のチラシを作成しました。

2層Coが作成したチラシを持参して事業所・企業などに訪問し、取組内容の説明を行いました。

事業所からは、「社会貢献したいと思っていたが、何をしたらいいかわからなかった」「車両は出せないけど、会場は貸せます」「体操教室の講師ならできる」など更なる広がりが見えてきました。2層Coは**車両だけでなく会場や人材など、事業所・企業が協力できることを把握し、協力事業所の一覧表**作成しました。1層Coは一覧表を使用し区内全体でのマッチングとコーディネートを行いました。

取組2：区内の「車を使つての外出支援取組シート」を作成

区域の情報把握と今後の方向性を定めるために、取組内容、参加者、協力事業所の声や、成果・気づきなどを記載した取組シートを作成しました。参加者からは「**出かける喜びが生活への自信となった**」、ボランティアからは「**たくさんの人に出逢えて嬉しい**」「これを機会に**サロンにお誘いしました**」、事業所からは「**限られた時間で社会貢献ができた**」などの声がありました。

一方で、事業所からは、「車両を出すのはやはり不安！事故時の対応は？」などの課題も見えてきました。

これらの課題は区内2層Coと共有し、1層協議体の場を活用して解決に向けて話し合い、区内全体での取組とすることで**目指す地域像の一致**を図りました。

一人ひとりの「思い」「希望」に寄り添い生きがいづくりをすることがこの取組の目的です。

この取組みが区内の仕組みとして、継続、発展できるよう2層Co全員と協働で行うことを大切にしています。



【チラシ】

「笑顔の輪を広げませんか？」

事業所からは、「事故時の対応が不安で車両を出したくても出せない」との声があることを受け、活動中の**事故への対応マニュアル**の作成を検討しています。

また、「事業所・企業が社会貢献していることをアピールできると協力する事業所も増えるのではないかと」意見がありました。そのため、「**只今 社会貢献中！**」などの**ステッカー**を作成し、活動中の車両に貼ることを検討しています。今後、このステッカーを貼った車両が多くの方の“笑顔・希望”を乗せてあちらこちらで走りまわることを目指し、区域の仕組みとしていけるようにしていきます。

只今、地域貢献中



生活支援ボランティアグループの つながりづくり

体制整備事業が始まり、生活支援グループが新たに立ち上がったこともあり、区内の生活支援グループの情報共有する場を作りました。



鶴見区社協
内藤 陽介

1 層域

交流・
居場所

生活支援

見守り・
つながり

C 課題解決に向けた支援

B 目指す地域像の一致

A 地域アセスメント

1

取組のきっかけ

鶴見区内には、体制整備事業が始まる以前から生活支援の取組を行っているボランティアグループが 4 団体ありました。そして体制整備事業がスタートしてから、新たに 3 団体が立ち上がりました。

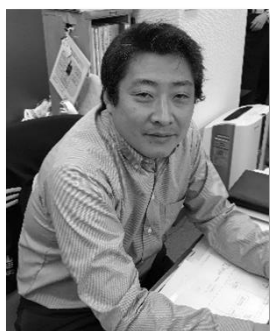
鶴見区社協でも平成 24 年度に当時生活支援活動をしていたボランティアグループの交流会を実施していましたが、その 1 回で終わっていました。そこで、区内で同様の活動をしていても、**横のつながりをもつことができていない状況や新たに立ち上げてそれぞれ活動について悩みを持ちながら活動を進めている状況**があったので、生活支援体制整備事業の目的の一つでもある**ネットワーク構築**に向けてボランティアセンターと連携をして交流会を開催することとなりました。

この交流会は、団体だけでなく普段から活動の支援を行っている CP の 2 層 Co にも参加をしてもらうことで、日々の団体支援にもつながる機会にしたいと思いました。

1 層 Co の思い

1 層 Co として区内のいくつかの生活支援ボランティアグループと関わりを持つ中で、活動をする中での悩みや他の団体に関する情報提供をする機会などがありました。

個別で対応することも大切だとは思いましたが、同じ悩みを抱えている団体や工夫しながら進めている団体など様々な立場の人たちが集まって情報共有する場を作りたいと考えました。



中田事務局次長

生活支援体制整備事業が始まり、CP の支援を受け新しい生活支援グループが 3 団体立ち上がったことから今回の交流会実施となりました。

活動内容やマンパワー、またそれらと実際に必要とされる依頼のミスマッチなど共通する課題もあることが改めて分かりました。

今回は課題共有に留まりましたが、区社協のボランティアセンターのノウハウを活かしながらこの交流会を“必要とされるお互いさま”について更に進化する機会としたいと考えています。

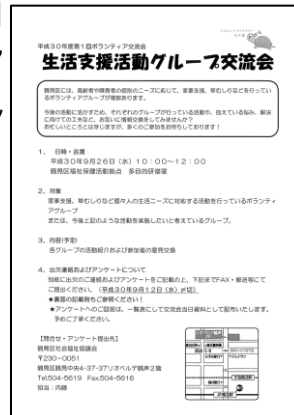
平成 30 年度に「生活支援ボランティアグループ交流会」を開催し、区内の CP エリアで生活支援活動をしている 7 団体に呼びかけ当日は、7 団体 16 名の方が参加されました。

◆7 団体より活動紹介

主に活動内容や担い手の状況などについて紹介

◆意見交換

- ・発表を聞いて他の団体に聞いてみたいこと
- ・活動の中で困っていること
- ・活動で工夫していること



団体の発表後の意見交換会はとても活発に行われました。日頃から他の団体の活動を知ることが少ない団体の方は色々な発見になっていたように思いました。

こういった場を区社協が主体となって作っていくことが実際に活動している団体が継続していくための一助になればと思います。

意見交換での主な内容

- ☆メンバーが高齢化しているが、新たなメンバーは増えていない。
⇒団体で福祉講座を実施して、そこからメンバー募集につなげている。
- ☆依頼が年々減少傾向になっている。PR 方法など工夫していることを知りたい。
⇒ホームページを立ち上げて PR している。
- ☆備品の保管場所に困っている。
⇒CP に保管の協力をしてもらっている。

など

参加者から終了後に

「他の団体の話が聞けて自分たちの今後の活動に活かしてみたい」、
「この会は定期的に実施してもらいたい」という意見がありました。



生活支援ボランティアグループ交流会は今後も定期的に行きたいと思っています。その場で多くのボランティア団体がつながり情報共有ができるようになることを目指していきます。

区域で共有していくことで、自分たちだけでは乗り越えられない課題についてはみんなで解決し、活動が少しでも長く続けられるようにするとともに、新たな生活支援ボランティアグループが今後も増えていくように支援していきたいと思っています。

団体名	活動日	受付方法	受付時間	対象エリア	対象者	担い手	件数	負担金	活動内容	その他
1. であら手伝い部	不定期	ケアアザ	開館時間	寺尾	高齢者・知的・精神・身体障害者、その他	15名		利用料あり	掃除・庭の手入れ・外出付添・ゴミ出し・家具等の移動・買い物代行・その他（水道設備・トイレ・ケアアザの手伝い・イベント時の子ども見守り）	他のグループの取組みを知りたい
2. ちよこど助け隊（仮）	不定期	ケアアザ	決まっていない	鶴見中央公園	高齢者	7名		利用料あり	掃除・庭の手入れ・外出付添・ゴミ出し・家具等の移動・買い物代行・その他（電球交換）	メンバー募集しているが募まらない。自主団体としての意識づけ等もどう対応しているか？
3. 87ラヴィグループせせらぎ	不定期	ケアアザ	決まっていない	鶴見ない	高齢者	8名		利用料あり	庭の手入れ・ゴミ出し・家具等の移動・話し相手	どのようにしたら、87ラヴィを増やせるのか。専任の人が雇えている。
4. 鶴見会87ラヴィひまわり	不定期	専用携帯	月～土 9:00～17:00	東寺尾 1,2,3丁目	高齢者	6名		利用料あり	庭の手入れ・ゴミ出し・その他（エアコン・掃除機、電球替え）	必要に応じて迅速に対応している。活動の周知方法
5. 朝岡NAG-親父会	不定期	ケアアザ	毎日 9:00～18:00	朝岡、横山、上末吉、下末吉	高齢者	7名		利用料あり	庭の手入れ、その他（親父の家の掃除）	87ラヴィの確保
6. ボランティアきりん	不定期	ケアアザ	決まっていない	寺尾第二地区	高齢者、知的・障害者、精神障害者、身体障害者、その他	15名	5～10件	利用料あり	掃除・庭の手入れ・外出付添・ゴミ出し・重い物の移動・買い物代行・話し相手	男性の担い手が少ない。男性の依頼に片寄っている。
7. 鶴の感謝し	不定期	その他	決まっていない	瀬田、市場	高齢者				庭の手入れ、その他（日曜大工、電球交換など）	

あきらめているニーズを実現！ イキイキとした自分らしい暮らしへ

～介護予防の視点からの外出機会の創出～

高齢者の外出実態を分析したところ、ADL 低下と共に「あきらめているニーズ」が多いことが見えてきました。「生き生きとした自分らしい暮らし」の実現に向けて、介護予防の視点から外出機会の創出に向けた取組を模索中。



保土ケ谷区社協
稲田 恵子

1 層域

交流・
居場所

生活支援

見守り・
つながり

C 課題解決に向けた支援

B 目指す地域像の一致

A 地域アセスメント

1

取組のきっかけ

保土ケ谷区内は急坂や階段が多く、ADL が低下してくると買い物や今まで通っていた地域のサロンに行けなくなる高齢者が多い、という話題を様々な地域で耳にしていた。

横浜市高齢者実態調査を確認したところ、平成 25 年度と平成 28 年度の比較で高齢者の外出頻度が減少していることがわかりました。その一方で、平成 28 年度の外出の考え方では 25.1%の高齢者が、「外出がおっくう、行く場所や用事がないので外出したいとは思わない」と回答。また「交通が不便、自宅周辺に坂や段差が多い、トイレの心配などで外出が負担に感じる」という高齢者は 25.4%。「身体が不自由、健康面で不安があり外出しようと思わない、したくてもできない」という高齢者は 13.6%という結果であることがわかりました。

他都市で巡回バスなどの高齢者の移動手段を整備しても、利用客が伸びずに継続が困難になっている地域もあるという情報も耳にしていたので、高齢者の外出支援は、移動手段の確保だけでなく、外出への不安を取り除き、モチベーションを高める取組も同時に取り組む必要があることを感じていました。

区の高齢・障害支援課と福祉保健課、区社協による体制整備事業の事務局会議の中で、こうした状況を共有し、高齢者の外出支援を区域での検討テーマとしていくことを決定しました。

1 層 Co の思い

地福計画（地区別計画）の推進を通じて、保土ケ谷区では各地区で居場所・通いの場づくりや生活支援のボランティア活動の立ち上げが進んでいますが、外出支援・移動支援は住民だけで取組を進めるのが困難なテーマだと感じていました。

1 層域で多くの関係機関を巻き込みながら、取組を進めていけたらと考えています。



保土ケ谷区
生活支援 CO 連絡会

保土ケ谷区は横浜の中央に位置し、電車・バスの路線が多く、主要幹線道路も 2 本通っているなど便利である一方で、起伏に富んだ地形で山坂が多く、地域によっては狭い急な坂道や階段もあり、「あきらめているニーズ」が見えてきています。すでに地域で買い物支援、通院支援などに取組んでいるところもあります。

様々な模索しながら保土ケ谷区行動指針の目指す姿である「高齢者の誰もが自分らしく暮らしていける」に近づけるよう、区、1 層 Co、2 層 Co で知恵を出し合って取組んでいきたいと思っています。（区地域包括ケア推進担当 太田係長）

2

取組の内容

♡ 1 層 Co の思い

まずは、生活支援 Co 連絡会と事務局会議で、高齢者の外出先や外出目的、現在の支援状況などを分析するためのワークを行い、それぞれの気づきを共有しました。

【ワークの方法】

- ① 高齢者の移動支援のニーズを洗い出し
- ② 外出先（目的）をカテゴリー分け
- ③ グループ化した支援が可能なものと個別の支援が必要なものを分類
- ④ 外出先（目的）に応じて現在の支援状況などを洗い出し
- ⑤ 気づきを共有

【考察】

- ・ 高齢者の外出先、目的は次のとおり大きく 3 つに分類されました。
 - ① 日常生活を送る上で欠かせないもの…買い物、通院、金融機関、行政手続き など
 - ② 日常生活上の楽しみ・つきあい …趣味、学習、健康づくり、近所づきあい など
 - ③ 非日常の楽しみ・つきあい …デパートでの買い物、旅行、親戚づきあい など
- ・ 上記の①は制度サービスによる代替手段が比較的整っているものの、買い物など、本来は自分でやりたいと思っているが、あきらめているものもあるのではないか。
- ・ ②③は「自分らしく、いきいきとした生活」に必要な要素だが、ADL の低下と共に、③→②→①の順で徐々に頻度が減り、外出をあきらめる傾向にある。
- ・ 誰かが連れ出してくれれば出掛けるが、自分からは頼みにくく、あきらめているものもあるのではないか。
- ・ 外に出掛けるきっかけづくりとともに、外に出ることへの自信をつけることも大事。外に出掛けることが減ってきた人には、楽しみ目的の外出の実現が効果的かもしれない。
- ・ 外出へのモチベーションを上げ、外出することで自信がつき、定期的な外出へとつなげることで介護予防効果が上がるのではないかと考えています。

課題解決には様々な機関の力が必要です。

社会福祉法人などの施設にも地域課題解決に向けた協力を仰ぐため、平成 30 年 1 月に「地域課題解決に向けた懇談会」を実施します。

CP エリアでグループに分け、CP、区、区社協の地区担当職員と施設とで地域課題の共有と施設の関わり方を検討します。



事務局会議でのワークの様子

3

今後に向けて

上記の検討結果を受け、保土ケ谷区では、高齢者の外出支援を生活支援の視点からではなく、介護予防の視点からアプローチすることとしました。

リハビリ専門職からも専門的な視点からの助言を得て、今後、「高齢者の外出機会の確保」に向けて、このテーマに関心のある方々を広く募るため、「高齢者の身体機能の低下と閉じこもりによる弊害（仮題）」に関する講演会を開催する予定です。講演会では上記の分析結果の報告も行い、高齢者の閉じこもりに関する課題を共有し、この課題に対して主体的に検討に加わってくれるメンバーを募りたいと考えています。

1 層域で立ち上げる協議体ではありますが、そこで検討される課題は区域、地区域、単位町内会エリアと様々なステージで解決を図っていくものになることが推測されるため、2 層 Co や包括とも連携しながら取組を進めていきたいと考えています。

今ある仕組みを活かして

～サービス B & シニアボランティアポイント事業を
港北区らしく～

他団体との意見交換を希望する声から「サービス B 情報交換会」を、シニア層のさらなる活動の活性化を目的に、2Co 連絡会主催で「シニアボランティアポイント研修」を、いずれも区域で実施しました。



港北区社協
渡辺 麻希

1 層域

交流・
居場所

生活支援

見守り・
つながり

C 課題解決に向けた支援

B 目指す地域像の一致

A 地域アセスメント

1

取組のきっかけ

サービス B 活動団体情報交換会

港北区は市内の中ではサービス B 活動団体数が多く、また新たな相談も数々寄せられています。

ある日、2層 Co より「活動団体から他の団体と情報交換がしたいという声があがっている」との情報が寄せられました。他団体にも聞いたところ、始まったばかりの制度の中、**日々手探りで進めている状況**がわかりました。

CP エリアを越えた調整が必要なことから、区社協で区内 5 団体（通所型 4・訪問型 1）に呼びかけ、「サービス B 活動団体情報交換会」を実施することに。

当初、近隣区に呼びかけ参加団体を増やすことも検討しましたが、活動団体からの「**まずは港北で**」との要望を受け、区内での**団体・CP 間の情報共有に重点**を置くことにしました。



インターネット新聞の取材も受けました！

シニアボランティアポイント研修

地域では様々な活動が行われていますが、**共通の悩みとして「担い手不足」**があげられます。

今年度、生活支援 Co 連絡会では**①新たな活動者の発掘と活動への橋渡し、②健康づくり・生きがいづくりの一環としての活動機会を広げること**を主な目的として、連絡会主催で「シニアボランティアポイント研修」を実施することにしました。

これまでも、本事業を横浜市から受託している団体主催の研修は行われています。区内で年 1 回程度、会場もほとんどの場合、区の中心地で行われています。そこで連絡会では、**より身近なところで参加できる機会を増やす**ため、会場は中心地から離れた下田 CP に。また、**参加者を地域の活動等**にどうつなげるか、生活支援 Co 連絡会主催で実施する付加価値などを模索していきました。

区内の生活支援 Co で、協力しながら進めてきました。シニアボランティアポイント研修当日は、気心の知れたメンバーたちの臨機応変な対応に、改めて心強さを感じました。また、これまでボランティア活動に興味はあるけど活動に至っていなかった方と関われる良い機会になりました。

（下田 CP 2 層 Co 前田さん ※前列左から 2 人目）

♡ 1 層 Co の思い

サービス B は始まったばかりの国の事業、シニアボランティアポイントは 10 年前にスタートした横浜市の事業です。

暮らしを支えるための身近な地域での仕組み等を創り出すことはとても重要できちんと考えていかなければならないことです。

しかし同時に、新設の制度の中で試行錯誤する団体等の活動をサポートすることや、既にある事業を活かし、区の特性や実情にあわせ展開方法を考えていくこともまた、大切ではないかと感じています。

2

取組の内容

サービス B 活動団体情報交換会

実施日：平成 30 年 10 月

参加者：28 名

- ▶ 準備段階では、2 層 Co が当該エリアで活動している団体にヒアリング（活動の工夫・課題等）
→ 団体側も課題等を再確認
→ 生活支援 Co 連絡会で共有
- ▶ 当日の会場は「COCO しのはら（サービス B 実施場所）」で
- ▶ 包括も参加。隣接した CP 同士でエリアをこえた連携の必要性を確認
- ▶ 事業対象者だけでなく、ボランティアの確保も課題…



シニアボランティアポイント研修

実施日：平成 30 年 11 月

参加者：55 名（スタッフ除く）

- ▶ 2 層 Co 全員がシニアボランティアポイント研修の講師認定→登録（生活支援 Co 連絡会の場を活用）
- ▶ 募集チラシでは「生活支援 Co とは…」もあわせて PR。広報は全 CP・区・区社協の総力戦！
- ▶ 「おすすめ活動ガイド」を作成し、研修にて配布。ガイドには、ポイント付与の有無問わず CP ごとのイチオシ活動（サービス B 活動団体を含む）を掲載。研修内でもガイドを使ってそれぞれ PR タイム！
- ▶ 当日は、参加者からたくさんの質問が。関心の高さを実感
- ▶ 研修参加者へ継続した働きかけができるよう、アンケートには関心のある取組と連絡先を記載する欄を設定

♡ 1 層 Co の思い

取り組むにあたっては、2 層 Co のみなさんと役割分担をしながら進めてきました。各エリアの特性や感触を掴んでいるみなさんのアイデアや意見を重ね、また 1 層 Co としては区域での調整や区・所長会等との橋渡し役を意識しました。

取組を通して出た意見や気づき、課題等は、横浜市等事業実施主体にも、現場の声として報告とともに届けています。



3

今後に向けて

サービス B 活動団体情報交換会

今後も区内での活動団体数の増が見込まれています。1 回目は情報交換が主でしたが、この事業を必要としている地域の方々のために、共通の課題の解決に向け、各団体や支援者（CP・区）が意見を交わし検討できる場になればと思います。

シニアボランティアポイント研修

次年度以降の継続も見越しながら、進めてきました。参加者の中には「初めて活動に関心をもった」という方もいらっしゃいます。区域で取り組むダイナミックさと CP エリアでのきめ細かさを連動させながら、実際の活動につないでいけるようアフターフォローを続けます。

サービス B × シニアボランティアポイント

平成 30 年 12 月から、サービス B 活動団体の「シニアボランティアポイント」受入の試行実施が始まりました（平成 31 年 3 月～本格実施）。団体の活動にボランティアとして参加するシニアが増え、担い手として活躍されることも期待しています。

重層的な支援の実現に向けて

～地域・行政・市場の
青葉区らしいネットワークのあり方とは？～

自助を重視する住民性の青葉区。地域だけに支え合いを求めず、地域・行政・市場の三者がそれぞれの強みを活かした、重層的な支援を実現するための仕組みづくりを始めました。



青葉区社協
関沢 千早

1 層域

交流・
居場所

生活支援

見守り・
つながり

C 課題解決に向けた支援

B 目指す地域像の一致

A 地域アセスメント

1

取組のきっかけ

□ ボランティアの声から…

青葉区では、平成 29 年 12 月と平成 30 年 8 月に生活支援ボランティアと集いの場ボランティアを集め、意見交換会を行いました。その中で、地域で支える強み（制度で決められた画一的なサービスとは異なり、馴染みの関係で本人らしさを支えることができる）を確認しながら、①個別ニーズとつながりたい、②CM など仲介役にきちんと活動を知ってもらいたい、③何でもボランティアで対応するのではなく、民間サービスで対応できるものは案内したい、という意見が出されました。

□ 生活状況アンケートから…

生活上の困りごとを調べるため、CM や包括の協力を得て要支援・要介護 1・2の方を対象にアンケートを実施しました（12CP 668 件）。介護度が進んでも、友人に比べ近所を頼りにする傾向や、多くの軽度者交流を目的にデイサービスに通っている実態、掃除を中心とした屋内外の生活支援のニーズの高さ、そして、「もう一度旅行に行きたい」など、生活を豊かにしたいという個々の声を多く頂くことが出来ました。また、ボランティアによる支援が活用されるかは、**そもそも CM がつなぎ方を知っているのか**によるのではないかと改めて実感する結果でした。

以上のことから、

- ◎【ボランティア】 ボランティアと CM がつながる場づくり
- ◎【市場サービス】 一時的なお願いごとができる便利屋との関係形成
- ◎【インフォーマルリスト】 情報収集と情報発信

を取組の柱としました。



荻田 CP
吉田 由香 Co

「こうだろうなあ」と推測していたことが、ボランティアさんからの声やアンケートの実施によって確認に変わりました。

確認に変わった時がチャンス！ 具体的な取組をどんどん進めていきたいです！

♡ 1層 Co の思い

あらゆる会議の場面で自助が求められる青葉区。自助が高いために「おせっかい」が受け入れられにくい側面があります。そのため、**自助を軸にしながら、住民がサービスを選べるネットワークづくりが重要である**と考えました。

<フォーマル資源>

行政
(公的サービス)

地域
(共感原理)

市場
(購入/自助)

<インフォーマル資源>

駒澤大 川上富雄

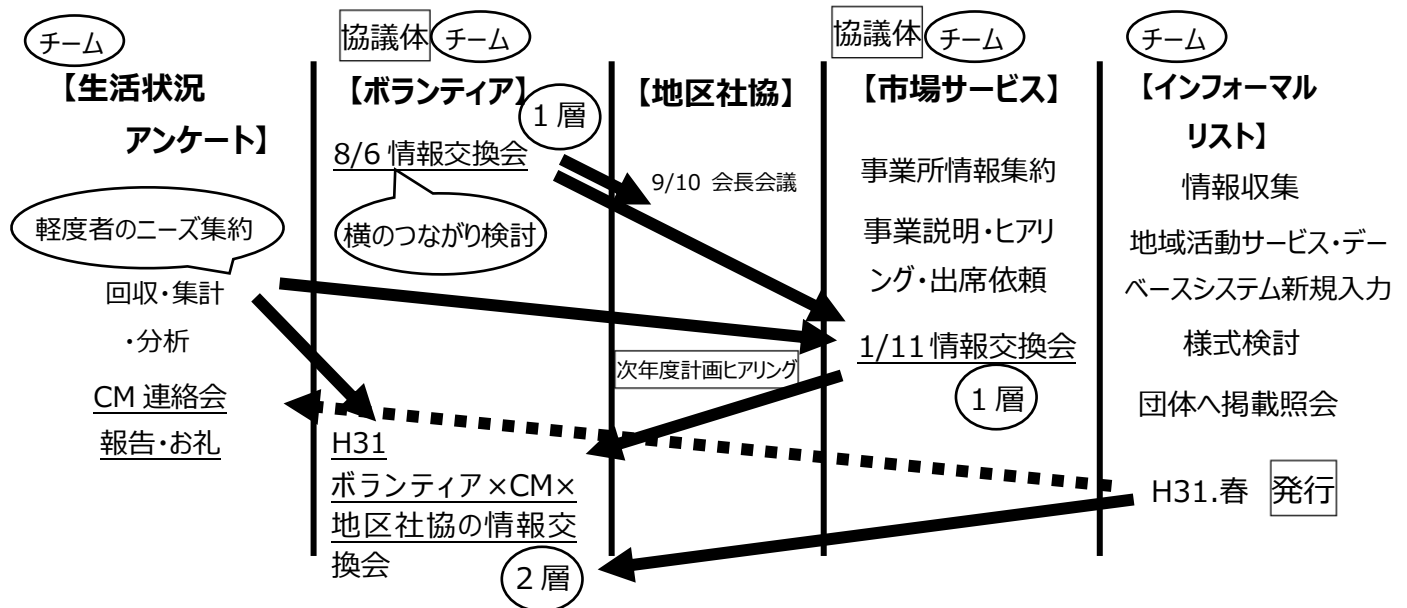
7/31 サポートチーム研修資料より抜粋し簡略化

自助・共助・公助と
読み換えられます

2

取組の内容

青葉区では、これらを事業の柱とし、それぞれがリンクしながら展開するよう2層 Co がチームで取り組んでいます。



□ 市場サービスとのネットワークづくり

13名の2層 Co が把握している企業による生活便利情報を集約したところ、66件に上の情報が集まりました。その中で、今まで関わりがなく、なんとなく怪しいイメージを感じていた『便利屋』や家事支援・片付けの事業所に絞り、14社へヒアリングを実施しました。ニーズに柔軟に対応しながら口コミで広がっている個人事業所や確立されたメニューを提供している大手事業所など、それぞれの「得意」を知ることができました。また、同時に体制整備事業の趣旨にも賛同し、**同じ地域の高齢者を支えるパートナー**として連携していきたいという前向きな意見を頂くことができました。これを受け、事業所の方々と CP 職員による情報交換会を開催し、必要としている方へつながるための「得意」を集めたネットワークづくりを行っています。



□ インフォーマルリスト『青葉かがやく生き生き活動情報』の発行
「地域情報を知りたい」という CM の声から、そして、「自らの関心に合った活動を見つけたい！」という区民性から、市域の動きと連動しながら、地域活動・サービスデータベースシステムを活用して地域主体の活動をリスト化する取組を進めています。現在は、**地域の方が温かい想いで運営している活動が、必要としている方に届くよう、情報を整理しています。**今後は、リストの発行だけでなく、周知方法・活用方法も検討する予定です。

3

今後に向けて

平成 30 年 4 月に発表された平均寿命のデータで、青葉区は男性が 83.3 歳で全国 1 位となりました。区民意識調査でも主観的健康観も高く、サロンなどでお話を聞くことのできる健康法を皆さん生き生きとご披露して下さいます。今後、ますますニーズが多様化する中、フォーマル・インフォーマルの「得意」を重層的に組み合わせ、その人にあった支援をコーディネートできる体制づくりが求められています。そのために、まずは行政・地域・市場が担うべきことの整理と発信を進めていきたいです。

移動支援のための ニーズ把握アンケート

～一人ひとりのニーズ把握に向けて～

地域アセスメントや「CM と Co の交流会」などで移動手段の確保が課題としてあがりました。どこに、誰と、どんな目的で移動している（移動したい）のかを把握するため、アンケートを実施しています。



都筑区社協
大橋 竜太郎

1 層域

交流・
居場所

生活支援

見守り・
つながり

C 課題解決に向けた支援

B 目指す地域像の一致

A 地域アセスメント

1

取組のきっかけ

都筑区では、CP の主任 CM 分科会と協力し、毎年度末に『CM と Co の交流会』を開催しています（地域交流 Co と生活支援 Co 両方）。平成 29 年度末（平成 30 年 3 月）の交流会では各職種の紹介を行い、グループワークでは『こんなサービスがあったらいい』『CM と Co がつながるためには』をテーマに話し合いました。

『こんなサービスがあったらいい』のワークで、各グループ共通していた意見の 1 つは“外出・移動”に関することです。都筑区では、インフォーマルな活動を冊子としてまとめたインフォーマルサービスリストを毎年発行しており、この交流会で配付しましたが、CM からは「参加してもらいたいが、会場まで行くことができない」といった声もあがりました。

かねてより、各 CP からも「サロンの担い手が高齢化しており、送迎できなくなった」「病院の付き添いのボランティア依頼が増えている」といった話が出ていたこともあり、区域の課題として、平成 30 年度の区域の目標に“移動支援”の取組を検討していくことを明記しました。

月 1 回、毎月開催している都筑区生活支援体制整備推進会議（区役所・CP・区社協が出席）で平成 30 年度から“移動支援”を定例的な議題としました。検討をしていくなかで、改めてニーズ把握が必要であるということを認識し、アンケートを実施することにしました。アンケートは『困っている人が○人』といった数的な把握ではなく、『ニーズがある方がどのあたりに住んでいて、どのようなニーズがあるのか』を把握できるような内容を目指していくことにしました。

1 層 Co の思い

“移動支援”が必要である、ということはいろいろな場面で聞いていました。この交流会でその必要性を直接 CM から聞くことができ、これがアンケートを実施するきっかけの 1 つになりました。

アンケートの内容については、困っている人がいることを前提に、何人困っているか、ではなく、どのようなニーズがあるのかが分かるような内容にできるよう検討を重ねました。



区地域包括ケア推進担当
菅野係長

大橋さんの細やかなフォローにより 5 つの CP の Co、区の担当者とのコミュニケーションが良いのが自慢です。

想定した枚数以上のアンケートが集まりそうで結果を楽しみにしています。

アンケートの作成にあたっては、既に他区で実施されている同様のアンケートを参考にしながら、都筑区としてのアンケート内容を検討しました。

『ニーズがある方がどのあたりに住んでいて、どのようなニーズがあるのか』を把握するため、**日常生活では、どこへ行っているかだけでなく、どのような目的で・誰と・どのように外出することが多いか**を具体的に記入できるようにしました。また、**現在は行っていないが本人が行きたいと思っているところ**も記入できるようにしました。

そして、同じ町内でも場所によって状況が異なることが想定されたため、対象者の自宅の位置が大まかに把握できるように地図にシールを貼ってもらうようにしました。

区内の全 CP で実施する前に、アンケートの内容検討に協力してもらっていた主任 CM 分科会に相談し、2 人の主任 CM に試行的にアンケートを数名分実施してもらいました。

アンケートの試行実施を経て、平成 30 年 10 月中旬から全 CP でアンケートを開始しました。アンケートは事業対象者・要支援 1・要支援 2 の利用者を担当している CM に CP 経由で依頼することになりました。

各 CP が CM にアンケートを依頼する際には、**各 CP の地域アセスメントに活用しながら、今後の取組に活用しやすいように、CP として気になるエリアに多めにアンケートを配付する**など、工夫してもらっています。



実際のアンケート用紙およびシール貼り付け用の地図

生活支援 Co だけでなく、包括の特に主任 CM に早い段階からアンケート内容の検討に協力してもらい、アンケートの試行実施をしてもらえたことで、より一人ひとりのニーズが把握できるような内容にできたのではないかと思います。

また、各 CP に地域アセスメントの一環としても活用してほしいと伝えたことで、アンケートの実施が、今後どのように地域支援をしていくのか、CP 全体で改めて考える機会にもなったようです。

都筑区の特徴として、18 区で最も若い区でありながら、高齢化のスピードが早いということが予想されています。

可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けられるように、今のうちから健康づくりや社会参加の取組を拡充していくことが求められており、そのためにも移動支援の取組は重要です。

既に区内の一部の地域では、社会福祉法人が高齢者対象の食事会へ送迎の手伝いをするなどの事例ができています。また、前述の『CM と Co の交流会』のなかで、CM から「地域課題の解決に向けて、一緒に取り組んでいきたい」といった意見がありました。

今回のアンケートを通じて、漠然とした困りごとでなく、個人に焦点をあてた具体的なニーズを把握することで、住民主体の取組としてだけでなく、社会福祉法人や企業、NPO などの多様な主体に対して、協議体などを活用し、具体的な呼びかけを行うことができればと考えています。

横浜地域で取り組む 生活支援体制整備事業

～民間企業との連携の勉強会～

民間企業との連携といっても、地域によって、連携したい分野や相手は違います。そこで、毎月の1層Co連絡会の後半を使い、多様な分野から講師を招いて、有志の勉強会を開催しました。



横浜市社協
藤盛・村瀬・川崎

0 層域

交流・
居場所

生活支援

見守り・
つながり

C 課題解決に向けた支援

B 目指す地域像の一致

A 地域アセスメント

1

取組のきっかけ

横浜市社協は、横浜市とともに体制整備事業の事務局を担っています。市域全体の事業推進に向けて、手引きづくりや研修、1層Co連絡会などに取り組んでおり、いわば0層域の生活支援Coとして活動しています。

体制整備事業は、その地域の資源や課題、関係性などによって進み方は異なるため、一律で進めていくことはそぐわない事業です。研修も、それぞれ地域の状況やCo自身の経験年数も異なる中、何を共通の内容とするべきか悩ましい部分もあります。そのため、人口370万人という大きな都市として、市社協が市域で何ができるのかが課題の一つでした。

そんな中、とあるコンビニエンスストアのエリア担当者の方から、店舗の営業圏域やエリアの考え方は区や市の単位とは異なるため、連携をどこに持ちかけてよいか難しい、という話をうかがいました。また、移動販売などは、利益の確保のため販売スポットを確保する必要があり、場合によっては区を超えた調整が必要とのことでした。あるスーパーからは、買い物の代行を助けるツールを作ったので、それを活用する方法を地域の方と考えたいとお話もありました。

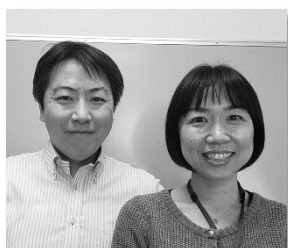
そこで、横浜市社協として、市域のスケールメリットと、民間としての社協の立場を活かして、多様な企業の方に数多く招いて勉強会を開くことにしました。その企業に関心のある1層Co、2層Coに参加してもらうことで、相手を理解すると同時に、具体的なつながり作りを目指しました。

市社協職員の思い

平成30年度の重点テーマの一つが「民間企業との連携」だったため、当初はCo全員向けの集合研修を企画しました。

ところが、1層Co連絡会で検討する中で、企業といっても多種多様で、たった1回の研修で、すべてのCoにとって意味のある内容にするのは難しいということになり、「勉強会」という形になりました。

2層Coのニーズを把握している1層Coと一緒に研修企画ができたことで、よい形になったと思います。



横浜市健康福祉局
地域包括ケア推進課
古川係長と担当の岡部さん

生活支援体制整備事業では「多様な主体の連携」が求められています。しかし、今まで関わりのなかった主体との新たな連携には、行政としては、どうしても動きが遅くなりがちです。スピード感をもって民間企業と連携した企画・調整ができるのは、市社協の強みだと感じました。この勉強会は、生活支援Coをはじめ参加者の、今までの発想の殻を破るきっかけとなる貴重な機会だったと思います。

2

取組の内容

市社協職員の思い

気軽に参加できる勉強会とするため、毎月行っている1層Coの連絡会の後半1時間を使い、2層Coや行政の職員も参加できる形としました。

1層Co連絡会の中で、どのような分野からどのような企業に来てほしいかなどを話し合いました。（実施内容は次の表のとおり）

開催月	講師	内容
7月	株式会社アリア	移動スーパー
8月	オーケー株式会社	お友達宅配
9月	ブルーチップ株式会社	移動スーパー「とくし丸」
11月	三和交通株式会社	タクシー
12月	株式会社ローソン	ケアローソンと移動販売
1月	株式会社ベンリーコーポレーション	生活支援サービス
3月	横浜市道路局	地域の交通について

色々な企業の話聞くことで、それぞれに独自の戦略を持っていることが分かりました。また、以下のような共通する課題を抱えていることも見えてきました。

◆どの業界も人手が不足している

ニーズがあることが分かっているにもかかわらず、それを支える人手が足りません。高齢者には働き手としての期待も高いようです。

◆漠然としたニーズではなく、具体的な地域ニーズと結びつけられるかが重要

どの地域にも買物や移動のニーズはありますが、企業がサービスの提供を決断するためには、必ず利益の出る確かなニーズを確保する必要があります。

これから、企業の協力を得るには、地域側のニーズのとりまとめや人材確保への協力に加え、その事業を地域でずっと応援し守り続けていくことが必要だと思いました。

初めて話を聞く業界の方たちも多く、打合せだけでも貴重な機会となりました。

「タクシーの乗務員も、利用者が困っていたらどこまで手助けするか迷うが、結局は人としての問題」「便利屋業は利用者のニーズありき。メニューにないからできませんとは言わない」といった印象的なお話もたくさん聞くことができ、福祉の視点からも参考になりました。



毎回40～60名が参加



終了後は、その企業に関心のあるCoが名刺交換

3

今後に向けて



1層Coが報告書を作成し、関係者間で共有しました

「民間企業との連携」は、CPや区社協でも長らく取り組んできたテーマです。これまでは、金品の寄付や場所の提供、ボランティアとしての貢献活動など、CSRの切り口が中心でした。体制整備事業が始まったことで、民間企業はその本業によって高齢者の生活を支える、大切な地域の一員という関係性へと深まってきたと感じます。

今後は、地域側のニーズを具体化し、企業などとなぎ、人手や利益が確保できるような応援が必要だと感じました。また、市域や区をまたいだ仕組みの検討が必要なものについても、市社協のネットワークを活かしながら具体化していけるように取り組みたいと思います。



第1層生活支援コーディネーター活動事例集

発行日 平成 31 年 3 月

発 行 社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
〒231-8482

神奈川県横浜市中区桜木町 1-1

横浜市健康福祉総合センター8 階

(地域活動部 地域福祉課)

TEL : 045-201-8616 FAX : 045-201-1620

<http://www.yokohamashakyo.jp>



ほら、
よこはまは
あったかい